

# 令和6年度取組 掲載一覧

学校名・取組をクリック！

## 《小学校の取組》

No	枝種	学 校	領域	取 組
1	小学校	<a href="#">岩国市立杭名小学校</a>	防災	<a href="#">自分で考えて避難行動をすることをめざした避難訓練</a>
2	小学校	<a href="#">和木町立和木小学校</a>	複合	<a href="#">町内一斉園小中合同引き渡し訓練</a>
3	小学校	<a href="#">柳井市立柳井南小学校</a>	防災	<a href="#">令和6年度 保・小・地域合同避難訓練、引き渡し訓練</a>
4	小学校	<a href="#">柳井市立小田小学校</a>	防災	<a href="#">地域と連携した地震・津波対応避難訓練</a>
5	小学校	<a href="#">周防大島町立久賀小学校</a>	防災	<a href="#">小中高合同避難訓練</a>
6	小学校	<a href="#">周防大島町立三蒲小学校</a>	防災	<a href="#">1年生お迎えふれあい遠足兼地震・津波対応避難訓練</a>
7	小学校	<a href="#">周防大島町立明新小学校</a>	生活	<a href="#">PTAや地域の関係機関と連携した心肺蘇生法講習会・着衣泳</a>
8	小学校	<a href="#">周防大島町立島中小学校</a>	防災	<a href="#">赤十字防災セミナー</a>
9	小学校	<a href="#">田布施町立麻郷小学校</a>	防災	<a href="#">自然災害から身を守ろう</a>
10	小学校	<a href="#">平生町立佐賀小学校</a>	防災	<a href="#">複合災害を想定した避難訓練</a>
11	小学校	<a href="#">周南市立遠石小学校</a>	複合	<a href="#">一人一台タブレット端末を活用した「デジタル安全マップづくり」「KYT学習」「交通安全教室」</a>
12	小学校	<a href="#">下松市立中村小学校</a>	防災	<a href="#">コミュニティ・スクールの仕組みを生かした取組（防犯・交通安全・防災）</a>
13	小学校	<a href="#">光市立島田小学校</a>	生活	<a href="#">不審者対応避難訓練</a>
14	小学校	<a href="#">山口市立白石小学校</a>	防災	<a href="#">地域と連携した防災マップ作り</a>
15	小学校	<a href="#">防府市立華城小学校</a>	防災	<a href="#">自衛隊、消防、警察、地域と連携した防災訓練</a>
16	小学校	<a href="#">防府市立右田小学校</a>	防災	<a href="#">避難訓練を生かした全学級の「防災学習」</a>
17	小学校	<a href="#">防府市立玉祖小学校</a>	生活	<a href="#">夏休み前の指導が大切、着衣水泳</a>
18	小学校	<a href="#">宇部市立西宇部小学校</a>	防災	<a href="#">デジタルハザードマップを活用した防災授業とラインド型避難訓練</a>
19	小学校	<a href="#">美祢市立大嶺小学校</a>	防災	<a href="#">全校引き渡し下校訓練</a>
20	小学校	<a href="#">山陽小野田市立有帆小学校</a>	防災	<a href="#">有帆地区合同防災訓練</a>
21	小学校	<a href="#">山陽小野田市立厚狭小学校</a>	生活	<a href="#">もしもに備えて シミュレーション（エピペン®・AED）</a>
22	小学校	<a href="#">下関市立豊浦小学校</a>	防災	<a href="#">幼保こ小連携を生かした避難訓練</a>
23	小学校	<a href="#">下関市立檜崎小学校</a>	防災	<a href="#">学校・家庭・地域の連携・協働による防災をテーマにした体験活動及び熟議の実施</a>
24	小学校	<a href="#">萩市立明倫小学校</a>	防災	<a href="#">地震対応避難訓練</a>
25	小学校	<a href="#">萩市立川上小学校</a>	防災	<a href="#">山口県防災危機管理課による防災体験学習</a>
26	小学校	<a href="#">萩市立佐々並小学校</a>	複合	<a href="#">小中が連携した訓練や地域と連携した安全教育の取組</a>
27	小学校	<a href="#">長門市立通小学校</a>	複合	<a href="#">授業等における安全学習</a>
28	小学校	<a href="#">長門市立明倫小学校</a>	防災	<a href="#">地域と連携した防災学習</a>
29	小学校	<a href="#">阿武町立福賀小学校</a>	複合	<a href="#">ICTを活用し、関係機関と連携した避難訓練</a>

## 《中学校の取組》

No	校種	学 校	領域	取 組
30	中学校	<a href="#">岩国市立川下中学校</a>	防災	<a href="#">地域・保育園と連携した津波想定の手合避難訓練</a>
31	中学校	<a href="#">周防大島町立周防大島中学校</a>	生活	<a href="#">授業における安全学習～救急蘇生法を学ぶ～</a>
32	中学校	<a href="#">上関町立上関中学校</a>	防災	<a href="#">緊急時引き渡し訓練の実施</a>
33	中学校	<a href="#">田布施町立田布施中学校</a>	防災	<a href="#">休憩時間を想定した火災・避難訓練</a>
34	中学校	<a href="#">平生町立平生中学校</a>	生活	<a href="#">一次救命処置等についての校内研修</a>
35	中学校	<a href="#">下松市立久保中学校</a>	防災	<a href="#">ミニ防災避難訓練</a>
36	中学校	<a href="#">光市立島田中学校</a>	防災	<a href="#">小・中学校で連携した引き渡し訓練</a>
37	中学校	<a href="#">山口市立秋穂中学校</a>	生活	<a href="#">地域貢献活動（振り込め詐欺防止）</a>
38	中学校	<a href="#">防府市立大道中学校</a>	防災	<a href="#">地域と連携した防災教育を基盤にしたふるさと学習（1年）</a>
39	中学校	<a href="#">宇部市立厚南中学校</a>	交通	<a href="#">地域と連携した危険箇所マップづくり</a>
40	中学校	<a href="#">美祢市立大嶺中学校</a>	防災	<a href="#">大嶺いのちを守ろう大作戦 ～「気づき、考え、実行する」生徒へ～</a>
41	中学校	<a href="#">山陽小野田市立高千帆中学校</a>	生活	<a href="#">職員研修会（AED・担架搬送）</a>
42	中学校	<a href="#">下関市立吉見中学校</a>	防災	<a href="#">第13回よしみ地区合同地震・津波避難訓練</a>
43	中学校	<a href="#">萩市立越ヶ浜中学校</a>	防災	<a href="#">越ヶ浜中学校校区地域ぐるみの防災キャンプ</a>
44	中学校	<a href="#">萩市立田万川中学校</a>	防災	<a href="#">専門家等と連携した防災授業～「Keyワードは『3と5』」サバイバルレッスン～</a>
45	中学校	<a href="#">長門市立三隅中学校</a>	防災	<a href="#">安全設備に関する知識を活用した火災避難訓練</a>
46	中学校	<a href="#">長門市立日置中学校</a>	防災	<a href="#">日置地区災害避難訓練</a>
47	中学校	<a href="#">阿武町立阿武中学校</a>	防災	<a href="#">阿武小中・みどり保育園合同引渡し訓練【地震による土砂災害対応】</a>

## 《小中一貫校の取組》

No	校種	学 校	領域	取 組
48	小中一貫	<a href="#">山陽小野田市立埴生小中一貫校</a>	生活	<a href="#">円滑な連携体制のある心肺蘇生法とAEDで命を救う</a>
49	小中一貫	<a href="#">萩市立見島小中学校</a>	複合	<a href="#">児童生徒が参加した学校安全委員会（地域安全マップ作り）</a>

## 《県立学校の取組》

No	校種	学 校	領域	取 組
50	県立	<a href="#">岩国総合高等学校</a>	複合	<a href="#">下校時の交通安全対策</a>
51	県立	<a href="#">高森みどり中学校</a> <a href="#">高森高等学校</a>	複合	<a href="#">安全教育・安全管理</a>
52	県立	<a href="#">柳井商工高等学校</a>	生活	<a href="#">保健授業における地域と連携した安全学習</a>
53	県立	<a href="#">熊毛南高等学校</a>	防災	<a href="#">大規模地震及び津波を想定した避難訓練</a>
54	県立	<a href="#">防府高等学校</a>	生活	<a href="#">AEDの使用を含むエピペン<sup>®</sup>講習並びに教職員応急手当講習会</a>
55	県立	<a href="#">防府西高等学校</a>	防災	<a href="#">避難訓練（地震）</a>
56	県立	<a href="#">宇部高等学校</a>	防災	<a href="#">防災に関する授業の実施</a>
57	県立	<a href="#">宇部西高等学校</a>	防災	<a href="#">教職員の安全意識の向上と危機対応能力を図る</a>
58	県立	<a href="#">宇部工業高等学校</a>	生活	<a href="#">救急救命講演会とアクションカードの作成</a>
59	県立	<a href="#">山口農業高等学校西市分校</a>	生活	<a href="#">心停止を想定した教職員の救急法研修-オリジナル救急アクションカードとフローチャートの作成に向けて-</a>
60	県立	<a href="#">下関工科高等学校</a>	生活	<a href="#">安全管理 教職員のAEDを用いた心肺蘇生法の研修</a>
61	県立	<a href="#">徳山総合支援学校</a>	生活	<a href="#">PTA事業の一環として実施した「校内安全パトロール」</a>
62	県立	<a href="#">山口総合支援学校みほり分校</a>	防災	<a href="#">事前学習・事後学習を充実させた地震対応避難訓練</a>

取組名	自分で考えて避難行動をすることをめざした避難訓練		
特徴	地域の防災士の助言に基づいた、学校の立地に合わせた避難訓練		
学校名	岩国市立杭名小学校	期日	令和6年11月7日（木曜日）

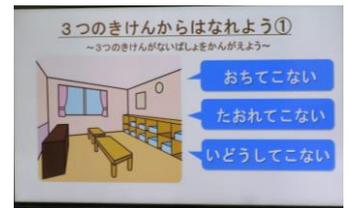
## 1 ねらい

- 地震や土砂災害が発生した時の基本行動を理解し、安全に避難できるようにする。
- 自分の命は自分で守る態度を育てるため、事前指導をしっかりと行い、教員がそばにいない場合でも、自分で考えて避難行動ができるようにする。
- 実際の災害を想起できるよう災害の内容を具体的に設定し、自分事として避難訓練に取り組み、防災への意識を高められるようにする。

## 2 概要

### (1) 具体的な想定

- ・防災士に助言をいただきながら「児童が自ら考え、危険を予測し回避する行動をとれるようになる」ことを目標とした。
- ・本校は土砂災害警戒区域に立地しているため「雨天が続いた後、震度6の地震と余震、校舎前方の山で土砂災害が発生」と想定。
- ・今年度は初めてブラインド型で行うこととした。その際、訓練を休み時間に設定し、児童自らが考えて行動するよう、あえて教員は声かけを控え、姿が見えないところで待機することとした。



基本行動の事前指導



自分の判断で避難する

### (2) 丁寧な事前指導

- ・スライド資料を基に緊急地震速報後の行動として「3つの危険から離れる」「3つの安全行動」「揺れに備える3つのポーズ」「余震も何度か起こるので気を付ける」等を中心に指導した。
- ・校舎は丈夫（耐震）なので、できるだけ早く校舎の3階に避難すること、周囲の低学年等に一緒に逃げるよう声をかけること。



命を守るためのお話

### (3) 地震・土砂災害想定での避難訓練

- ・中休みに放送で緊急地震速報と揺れを感じさせる轟音を流した。外にいた児童は安全姿勢を取った後、靴を履いた状態で校舎3階まで走って避難した。低学年に声をかけ一緒に逃げる児童も見られた。教室内にいた児童も机の下に入り安全姿勢をとった後、3階に避難した。途中、余震を表現する轟音を放送で流したが、避難中の児童には聞こえづらく、安全行動はできなかった。



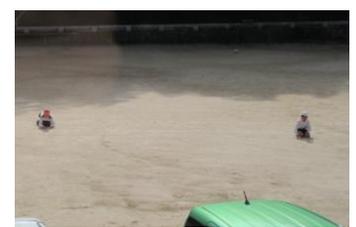
震度6の揺れ体験

### (4) 地震から命を守る学習

- ・避難訓練終了後、防災士より地震から命を守る行動について話を聞く。大地震の動画を視聴しマットで震度6の揺れ体験もした。

## 3 成果と今後の課題等

児童は教員の指示を受けることなく自分で判断し避難することができた。しかし、外にいた児童は揺れの途中でいきなり移動を始めてしまい、2名しか安全姿勢を続けなかった。「揺れが収まってから移動・余震でも安全行動」について改めて確認しておくことが必要である。また「外から校舎内へ避難」「走って避難」「声をかけながら避難」等、これまでの避難行動とは違った行動であるので、何度か同様の避難訓練をすることで児童に身に付けさせたい。



運動場での安全姿勢

取組名	町内一斉園小中合同引き渡し訓練		
特徴	町内に1つずつのこども園、小学校、中学校が期日をあわせて引き渡し訓練を実施することにより、実際の場面に近い形で演習することができる。		
学校名	和木町立和木小学校	期日	令和6年5月27日（月曜日）

## 1 ねらい

- 大規模災害や近隣での凶悪犯罪等が発生した際、安全に園児・児童・生徒を保護者に引き渡すことができるように訓練する。

## 2 概要

### (1) 保護者に児童の引き取りを要請する

- 園・学校から、保護者あて緊急メール又は電話により連絡し、園児・児童・生徒の引き取りを依頼する。  
※通信手段（携帯メール・電話）が使えるという場面設定で行う。  
※通信手段が使えない場合は、保護者の判断で園児・児童・生徒を引き取りに来ることを事前にマニュアルで知らせておく。



### (2) 保護者等が園児・児童・生徒を引き取りに来る

- 事前に保護者にはマニュアルで「小学校」→「こども園」→「中学校」の順で引き取りを行うよう依頼した。
- 保護者等の車両は、矢印に従って、公道から左折で駐車場に進入するように依頼した。
- 運動場での事故防止のため、駐車場係を配置し、車両を誘導した。
- 事前に保護者に「引き渡しカード」の記入と持参を依頼しておき、引き取り者が来校した際には提示するようマニュアルに記した。
- 教室に着いたら、保護者等の引き取り者は教職員に、「引き渡しカード（携帯用）」を渡し、「例（〇〇の母です。）」等と告げる。
- 園児・児童・生徒が引き取り者が誰なのか認識できたら引き渡す。
- 園児・児童・生徒の自宅以外の場所に引き取る場合は、職員に告げてもらうよう依頼する。

### (3) 引き取り者が退校する

- 事故防止のため、駐車場への入場経路と、退場経路を分け、駐車場係が誘導する。
- 引き取り者が来校しない園児・児童・生徒を担当が把握し、人数によっては集合させて管理するようにする。



## 3 成果と今後の課題等

町内一斉に、開始時刻をあわせて訓練を実施したため、実際の引き渡しの際にどのくらい保護者が集中して来校するかのシミュレーションをすることができた。駐車場がどのくらい混み合い、どのように誘導していくべきかも演習を通じて確認できた。

引き渡しカードを持参して示したうえで担任に名乗り、児童が確認できたところで引き渡すという一連の流れを、引き取り者も担任もしっかりと確認することができた。しかしながら実際の引き渡しの際に、引き取り者が引き渡しカードを持ち合わせないことも予想できるのでそのような場合には、運転免許証やマイナンバーカードなどを使って引き取り者を確認していくことも、今後の訓練の際には行っていく必要があると感じた。

取組名	令和6年度 保・小・地域合同避難訓練、引き渡し訓練		
特徴	地震・津波による二次避難場所（市指定緊急避難場所）への避難 現地での園児・児童の保護者への引き渡し訓練		
学校名	柳井市立柳井南小学校	期日	令和6年11月5日（火曜日）

## 1 ねらい

- 事件や災害等が発生した際の基本行動や避難の仕方について訓練を通して確認する。
- 教職員と保護者が協力し、引き渡しの方法や手順に従って、安全に円滑に引き渡しができるようにする。
- 児童、保護者、教職員等の安全意識の高揚を図るとともに、生命尊重の精神を養う。

## 2 概要

### (1) 柳井南保育所・地域と合同の避難訓練

#### ・13時55分

- ①発災。地震による津波の発生危険度が高まっていることを想定。
- ②二次避難場所への避難決定。校内放送で児童、教職員に知らせるとともに、支所、保育所へも連絡。保護者へは、避難開始と引き渡しを知らせるメール配信。

#### ・14時00分

- ③園児（教員2名が保育所へ行き、援助）、児童、地域（学校応援団、民生・児童委員、支所職員、警察官等）が小学校で合流し、二次避難場所への避難開始。

### (2) 園児・児童の保護者への引き渡し訓練

#### ・14時15分

- ①児童は、登校班ごとに並び替え、待機。
- ②教職員は、「保護者対応」「児童への対応」「引き渡し場所での安全確保」等役割分担に従って移動し、役割を遂行。
- ③保護者は、引き渡しマニュアルに則り、車または徒歩で児童の迎え。
- ④地域住民は、園児、児童等の安全確保に協力。

#### ・14時40分

- ⑤引き渡し完了。



児童が、園児の手をつないで二次避難場所へ

## 3 成果と今後の課題等

### 〔成果〕

- 事前の打ち合わせで、様々な場合を想定しながら、よりよい避難の仕方、引き渡しの仕方を模索する中で、教職員の安全に対する意識が高まったことが感じられた。
- 保育所、避難場所周辺住民、関係機関等と、事前、事後の連絡・調整を行ったことは、今後の参考になった。
- 保育所や地域と合同で行うことで、お互いにいろいろな人の立場を理解することにつながり、児童が園児の手を引いて避難するなど、共助の精神を養うこともできた。

### 〔課題〕

- 保護者等へ年度当初に引き渡しマニュアルを配付し、今回の実施に当たっても地図等を使って丁寧に共通理解を図った。安全に、確実に、また円滑に避難や引き渡しを行う上で重要なことであり、徹底するために今後も繰り返し確認していく必要がある。

取組名	地域と連携した地震・津波対応避難訓練		
特徴	学校運営協議会・スクールガード等と連携しながら指定緊急避難場所（柳井商工高校）までの避難を実施		
学校名	柳井市立小田小学校	期日	令和6年11月25日(月曜日)

## 1 ねらい

- 災害発生時において集団の中できまりを守り、落ち着いて安全に、速やかに避難することのできる態度を養う。
- 避難経路をたどることで、道の安全確認、児童に不都合な面はないか確認する。
- 教職員の必要な役割分担を確認する。

## 2 概要

### (1) 取組の経緯

本校では、令和3年度から、地域（伊保庄地区）の指定緊急避難場所である柳井商工高等学校まで避難をしている。柳井商工高等学校生徒と日時を合わせて、合同で避難訓練を実施してきた。

### (2) 取組内容

11月25日（月曜日）安芸灘を震源とする震度7の地震（南海トラフ）が発生した想定で、校舎内でのシェイクアウト訓練後、本校（海拔2.8m）から伊保庄地区の指定緊急避難場所である柳井商工高等学校（海拔21m以上）まで避難した。地域の方にも事前に周知し、当日は約20名が参加。児童が安全に避難できるよう誘導していただいた。



【シェイクアウト訓練】

### (3) 当日の流れ

9:55 緊急地震速報を受信

- ・シェイクアウト訓練（発災直後の安全行動）
- ・揺れの収束後、集合場所（正面玄関前駐車場）への避難

10:10 指定緊急避難場所への避難開始

- ・教職員は避難経路の崖崩れ等を想定しながら、児童を誘導する。
- ・地域の方（さざ波会、スクールガード）が横断歩道や分かれ道等で安全確認・誘導を行う。

10:50 柳井商工高等学校運動場への避難完了

- ・校長講評、地域の方の話、校舎内見学

11:35 帰校開始

12:05 帰校



【危険箇所を確認しながら避難】



【地域の方による誘導】



【柳井商工高等学校への避難完了】

## 3 成果と今後の課題等

### (1) 成果

今回の訓練により、指定緊急避難場所までの避難経路について、距離（2km）や所要時間（30分）、交通量、危険箇所等を確認することができた。また、登下校中の緊急避難場所として想定している高台（2カ所）についても、現地付近で具体的に児童に指導することができた。

### (2) 課題

次年度は地域の防災部局とも連携した避難訓練を企画・実施し、より安全な避難についてさらに検討したい。



取組名	小中高合同避難訓練		
特徴	隣接する小中高が、地域と連携して地震・津波対応の避難訓練をする		
学校名	周防大島町立久賀小学校	期日	令和6年11月25日（月曜日）

### 1 ねらい

- ① 久賀地域で学ぶ小学生から専攻科生までの児童生徒が、地域の防災組織と連携し、非常災害時（地震・津波）に協力し、互いの生命を守るために安全・迅速な避難行動ができる能力・態度を養う。
- ② 災害時における各学校の教職員の役割分担や連携協力体制を確認し、実際の災害時に有効に機能する防災ネットワークを構築する。
- ③ コミュニティ・スクールとして、学校・家庭・地域が連携・協働し「地域協育ネット」の仕組みを活かして地域のネットワークを形成することにより、地域で減災に取り組む契機とする。

### 概要

	想定状況	内 容	備 考
1	緊急地震速報発表	震度7(M9.0)の地震が発生	教室等で安全確保及び必要な対応
	一次避難	各学校において一次避難	各学校で対応
	大津波警報発令	3～5mの津波が予想される。最大津波到達まで、20分と想定。	避難指示発令
2	二次避難	指定避難場所への避難	全校児童生徒、高台に避難
3	防災に関する研修	町総務課と研修	段ボールベッド、パーテーション

### 3 成果と今後の課題等

年齢の幅が広く、共に避難するという自覚が生まれる訓練である。本年度の話し合いでは、地域と連携して防災無線の活用や防災用品の研修を含めようという意見が出た。周防大島町の防災担当と交渉を重ね、被災した時に使用する段ボールベッドやパーテーションを実際に見たり触ったりする経験をすることで、高学年の児童は防災に関する意識を高めることができた。実際の避難では、中学生が小学生と手をつなぎ、安全管理に留意しながら参加した小中高生全員が無事高台へ避難することができた。



取組名	1年生お迎えふれあい遠足兼地震・津波対応避難訓練		
特徴	保護者・地域との連携		
学校名	周防大島町立三蒲小学校	期日	令和6年4月26日（金曜日）

## 1 ねらい

- 三蒲地区で想定される地震や津波について知り、地震が発生した後に津波警報が発令された場合の避難行動について確認し、自然災害に対する意識を高める。
- 地域の方々や保護者と連携し、授業中、震度5以上の身体ではっきり分かる地震が発生したときの教室内での対応及び地震による津波警報が発令されたことを想定して避難を体験する。
- 三蒲地区の町指定避難場所としての三蒲小学校多目的室の確認をする。

## 2 概要

### (1) 保護者、学校運営協議会委員及び地域住民への周知

多くの地域住民の参加が得られるよう、学校運営協議会委員の方と避難訓練の内容や進め方や地域住民への呼びかけについて事前の打ち合わせを行い、それぞれの役割を確認した。例年実施している「1年生お迎えふれあい遠足」で登る文珠山への道の途中が津波警報発令時の二次避難場所となっているので、遠足と兼ねて避難訓練を実施し、多数の保護者・地域住民の参加を期待した。学校が作成した案内文書を保護者や学校運営委員会委員に配付するとともに、自治会の回覧で地域住民へ文書を配り、参加を呼びかけた。その結果、保護者、学校運営協議会委員、地域住民合わせて約30名の参加があり、学校・地域・保護者が連携した避難訓練を行うことができた。

### (2) 地震・津波警報への対応

地震発生により、各教室内で担任の指示のもと、机の下に潜って安全を確保した。その後、一次避難場所で津波警報が発令されたことを知り、二次避難場所へ移動した。校舎から運動場へ迅速に避難する様子を、参加した保護者や学校運営協議会委員、地域住民が参観した。



地震発生で身を守る様子

### (3) 二次避難の様子

児童は、「二次避難場所までは遠足ではなく避難訓練だから真剣に取り組む」という約束を守り、6年生は1年生の手を5年生は2年生と手をつないで、懸命に坂道を歩いた。保護者・地域住民も、各自の体力に合わせて、黙々と避難する姿が見られた。



二次避難の様子

## 3 成果と今後の課題等

- 1年生お迎えふれあい遠足には、毎年多くの保護者・地域住民が参加しており、この活動と避難訓練を同日に行うことで保護者・地域住民の参加が増えた。
- 今後さらに保護者や地域住民にも防災への意識を高めていただくために、町役場の担当課の方に町で想定される地震や津波、町の備蓄品などの話を聞いたり、防災のエキスパートの方を講師に招いて災害の実情や防災のポイント等についての指導を受けたい。

取組名	P T A や地域の関係機関と連携した心肺蘇生法講習会・着衣泳		
特徴	学校・家庭・地域が連携し、児童と一緒に水難事故防止や救助の方法を学ぶ		
学校名	周防大島町立明新小学校	期日	令和6年6月29日(土曜日) 令和6年7月3日(水曜日)

### 1 ねらい(心肺蘇生法講習会と着衣泳)

- 土曜参観日に合わせて心肺蘇生法講習会を実施することを通して、児童、保護者、教職員の緊急時対応への意識を高める。
- 着衣泳の学習を通して、水難事故に遭ったときに自分の命を自ら守る方法について知ることができる。

### 2 概要

#### (1) 消防士・保護者・教職員・高学年児童による心肺蘇生法講習会

- 実施日 令和6年6月29日(土曜日)土曜参観日
- 対象者 5・6年児童、教職員、保護者(消防士含む)
- 実施方法

##### 《事前》

- ・本校保護者には消防士の方が複数いることから、講習会講師を依頼。
- ・代表の方と心肺蘇生法講習会の目的・準備・当日の日程等を確認。
- ・当日の内容を学校とP T Aの会長及び保健体育委員会役員とで企画。

##### 《当日》

- ・海や川で水難事故に遭った人を救助するという場面を想定。
- ・4グループで実施。各グループには、消防士の講師1名と児童、保護者、教職員が均等に入り、「指示を出す」、「119番通報する」、「A E Dを持ってくる」などの役割を交代しながら心肺蘇生法の演習を行った。



#### (2) 地域の関係機関と連携した高学年児童による着衣泳

- 実施日 令和6年7月3日(水曜日)
- 対象者 5・6年児童
- 実施方法
  - ・講師として、周防大島町B & G海洋センターの職員数名を招聘。
  - ・水難事故に遭いそうになった時の救助の待ち方(大の字で仰向けになる、浮き輪代わりにペットボトルを使う)について実践した。



### 3 成果と今後の課題等

- 心肺蘇生法講習、着衣泳ともに1学期に実施することにより、児童は、夏休みに向けて水難事故等に対する危機意識を高めるとともに、「自分の命は自分で守る」という気持ちを醸成することができた。
- 講師として招聘した消防士やB & G職員の方々は教育活動に非常に協力的である。複数の方が指導に関わってくださったことにより、参加した児童や保護者にとって学びの多い時間となった。今後は、対象の学年を広げるなど、全ての児童にとって学びのある活動を考える必要がある。

取組名	赤十字防災セミナー		
特徴	専門家と連携して正しい知識を身につけ、自宅で地震が起こった際に身の回りにある危険を予知する。		
学校名	周防大島町立島中小学校	期日	令和6年10月29日（火曜日）

## 1 ねらい

- 地震の仕組みや被害の実態、避難の仕方を知ることにより、地震に対する正しい知識を身につける。
- 自宅にいる時に地震が起きた場合、どのような危険があるか、自分の身を守るにはどうすればよいかを適切に判断できる。
- 学校での防災セミナーに地域の方も参加していただくことで、地域全体の防災意識を高める一助とする。

## 2 概要

### (1) 地震に対する正しい知識の習得

- ・ 講師の方から、東日本大震災や熊本地震などの写真や資料を見せいただきながら、地震の起こる仕組みや被害の実態などの話を伺った。
- ・ 大きな地震に遭遇したことがない児童にとっては、地震の起こるメカニズムや、地震での揺れによる被害の大きさ、避難生活を余儀なくされた方の暮らしのことなどを聞くことで、地震の恐ろしさを改めて感じていた。
- ・ 在宅避難に備えるために必要な備蓄量や、ローリングストックをして、いつでも使えるようにしておく工夫など、役立つ情報を知ることができた。
- ・ いつ起きるかわからない地震だからこそ、日頃から備えておかなければならないことを、児童は理解することができた。



地震について話を聞く児童

### (2) 家庭内安全対策の必要性「家具安全対策ゲーム (KAG)」

- ・ 地震が起こった時に、家の中ではどのようなことが起こるか、講師の方の話を聞いたり実際の画像などを見たりしながら確認をした。
- ・ 命を守るために安全なスペースを確保することや、素早く避難するためにするために屋外への経路を確認することなど、安全対策のポイントを押さえることができた。
- ・ 自分の家の間取り図を描いて、危険な箇所はないか、どのような対策ができるかを赤十字の方や地域の方と一緒に考えた。一人一人が自分事として捉え、真剣に考えていた。



安全対策を考える活動

## 3 成果と今後の課題等

- 赤十字社防災奉仕団の方の専門的な話のおかげで、分かりやすく地震について学ぶことができた。
- 事前に自分の家の間取り図を描いてきてから学んだことにより、活動に真剣で前向きに取り組むことができた。
- 防災の専門家による児童の学びの場に、地域の方も参加していただくことにより、互いの意見の交流ができ、個々の学びが一層深まった。
- これからも地域防災拠点の一つとして、地域全体の防災意識を高めるために、情報を発信し、地域とともに学ぶ場を創出していく。

取組名	自然災害から身を守ろう		
特徴	4年生の総合的な学習の時間における、家庭や地域と連携した災害から身を守るための児童の主体的な探究活動への取組		
学校名	田布施町立麻郷小学校	期日	令和6年9月～12月

### 1 目的

- 児童一人ひとりが防災について考えたり、自然災害から自分や家族、地域を守るために自分たちにできることを見つけたりする活動を通して、災害に備えて行動するためのきっかけをつくる。

### 2 概要

#### (1) 取組内容

- ・地域の防災に関わる施設や取組を知ったり、消防団の方にゲストティーチャーとして来校していただき、防災についての話を聞いたりすることで、地域の安全に暮らすための様々な防災に関する取組を知る。
- ・麻郷地域や家庭での防災に関する取組を調査する活動を通して課題を見出し、課題解決のための方法を考える。
- ・課題解決に向けてグループごとに調べたり、まとめたりする。
- ・まとめた内容を発表し、ゲストティーチャーからアドバイスや意見をもらう。
- ・もらったアドバイスや意見をもとに、さらにプロジェクトをよりよくしていくための方法を考える。
- ・考えた改善方法をもとに、再びグループで調べたりまとめたりする。
- ・学んだことをパンフレットにまとめたり、防災ソングを作ったりして、家族や地域の人へ身近に潜む自然災害への危機意識の啓発へつなげる。



【防災授業】



【防災体験】



【防災資料確認】

#### (2) プロジェクト別取組内容

- ①田布施町に来るといわれている地震や震度等についての情報を伝えるグループ
- ②災害前にしておくよいい準備について伝えるグループ
- ③地震が起こったときにとる行動について伝えるグループ
- ④避難所などを写真で示し、子どもたちにも分かりやすいハザードマップを作成するグループ
- ⑤家族みんなのできる、防災についてのすごろくを作るグループ



【ヒアリング】

### 3 成果と今後の課題等

9月後半から12月までの約3か月かけての長期プロジェクトであった。担任だけでなく、町役場の防災に関わる担当課や田布施町消防団長等地域の専門家をゲストティーチャーに招いての授業を度々実施できたことも、児童の探究意欲を持続させる手助けとなった。また、書籍やインターネットとは違い、自分の生活に直結する防災に関し、生の声を直接聞ける環境が整えられたことにより学習を進める中で児童の探究的な学習がより進み、「もっと知りたい!」「こんなことやりたい!」という活動へと、災害から命を守るための主体的な取組へとグレードアップしていった。

今後は、12月にできあがったパンフレットをもって、田布施町役場を訪問し、田布施町町長様をはじめ、お世話になった町役場の担当課のみなさんや消防団長の方へ、防災ソングを披露する予定である。この取組をさらに地域の方や家族へ伝えていき、災害からかけがえのない命を守るための持続的な取組へと継続していきたい。



【グループワーク】

取組名	複合災害を想定した避難訓練		
特徴	校内における適切な避難経路の活用		
学校名	平生町立佐賀小学校	期日	令和6年9月19日（木曜日）

## 1 ねらい

- 地震災害に備える安全意識の高揚を図るとともに、生命尊重の精神を養う。
- 複合的に災害が発生した非常時における職員の避難指示及び誘導、地震や津波への対応の基本行動について確認する。
- 教職員及び児童に、当日まで火災発生場所をふせておいて、訓練放送を行い、放送を集中して聞きくことや、臨機応変な避難経路について考えることができるようにする。
- 避難誘導體制について問題点を把握し、非常時に備える。

## 2 概要

- (1) 授業中緊急地震速報が鳴ったため、校長へ報告し、緊急事態体制をとる。
- (2) 校内放送を行い、「安全確保の指示」を行う。
- (3) 校内放送でゴーンという地震の音を流す（3分間）。
- (4) 校内放送で「避難指示」を行う。
- (5) 児童を駐車場へ避難させ、人員確認・校長への報告を行う。
- (6) 防災士による防災教室を行う（30分程度）。

## 3 成果と課題等

### ○ 成果

#### (1) 複合災害の想定

- ・ 児童は、放送を聞いて、第一に地震への対応として「自分たちがいる場所」での適切な行動をとることができた。第二に火災及び地震への対応として、火災場所や倒壊等の状況に応じて避難経路を判断し、すばやく安全に避難する訓練を実現することができた。
- ・ 教職員は、落ち着いて児童への指示や避難行動を行ったり、人員確認及びその報告を行ったりすることができた。

#### (2) 防災士による講話

- ・ 地域のハザードマップを見ることで災害が身近なものであることを知ったり、家庭でできる備えについて考えたりすることで、児童の実態に即した内容となった。
- ・ 地震の発生する可能性やその恐ろしさについて、実際の動画や写真、歴史的資料等を提示しながら話をすることで、児童が理解しやすい内容となった。



最短経路での駐車場への避難



地域のハザードマップの話



書籍や資料を見る児童

### ○ 課題

児童が校外生活においても、自分や他者の身を守ることができるよう、具体的な場面を想定したKYTの視点を取り入れた訓練を行っていくことが求められる。地域全体で連動した防災や減災を実施することができるよう、保護者や地域の方々、近隣校と連携した避難訓練を実施していく必要がある。

取組名	一人一台タブレット端末を活用した「デジタル安全マップづくり」「KYT学習」「交通安全教室」		
特徴	一人一台タブレット端末を活用して安全学習を行い、児童の安全意識を高めた。		
学校名	周南市立遠石小学校	期日	(1) 令和6年11月7日(木曜日) (2) 令和6年11月8日(金曜日) (3) 令和6年12月6日(金曜日)

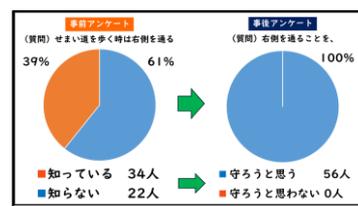
### 1 ねらい

- 危険箇所を調べ、一人一台タブレット端末を活用して広く情報共有を行うことで、安全に関する知識を身に付けるとともに、学校・家庭・地域の安全意識の向上を図る。(デジタル安全マップの作成)
- KYT資料を活用し、授業や校内子ども会などでKYT学習を行うことで、危険な場所や状況を予測して行動しようとする安全意識を向上させる。(KYT学習・危険予測学習)
- 安全対策の専門家による交通安全教室を通して、地域の実情に即した安全な登下校の仕方を学ばせる。(交通安全教室)

### 2 概要

#### (1) 一人一台タブレット端末や地域人材を活用した交通安全教室

- ・通学路安全対策をきっかけに、徳山高等専門学校の教授と連携して、5年生を対象に「何が危険か」「どのように通学すべきか」という問いから安全について考えるといった内容の交通安全教室を行った。
- ・一人一台タブレット端末で、交通安全教室の事前、事後のアンケートを実施し、児童の意識の変容から学習の定着を確認した。



アンケートの集計結果

#### (2) タブレット端末を活用した「デジタル安全マップ」の作成

- ・周南市スマートシティ推進課と連携して、令和5年度からデジタルマップを作成し、安全意識の向上を図っている。  
(令和5年度のデジタル安全マップ・周南市スマートシティ推進課: <https://www.city.shunan.lg.jp/soshiki/8/116720.html>)
- ・地域の方や保護者と一緒にフィールドワークを実施し、地域の安全な場所、危険な場所、おすすめの場所を探索しながら、一人一台タブレット端末に情報を記録した。
- ・一人一台タブレット端末を用いて、集めた情報を【交通】【災害】【防犯】に分類してデジタルマップ上に反映し、地域の安全マップを作成した。



デジタル安全マップ



フィールドワークの様子



調べたことをまとめる様子

#### (3) 一人一台タブレット端末やGoogle classroom等のアプリを活用した安全意識の向上

- ・一人一台タブレット端末を活用し、山口県のホームページにある「危険予測学習 (KYT) 資料集」を教職員のGoogle classroomで配信して、授業や校内子ども会でKYT学習を行った。
- ・オクリンクプラス (授業支援アプリ) を活用し、写真から分かったことを児童同士で共有しながら安全意識を高めた。



校内子ども会での KYT 学習



Google classroom での配信



授業支援アプリを活用した情報共有

### 3 成果と今後の課題等

一人一台タブレット端末を活用することで、「情報共有をスムーズに行うことができ、児童が主体的に活動できる」「学校のみならず地域全体で情報が共有できる」というよさがあることが分かった。これらのよさを生かして、引き続き一人一台タブレット端末を活用して、デジタル安全マップの更新や定期的なKYT学習を行いながら学校・家庭・地域の安全意識を向上させ、安心・安全な地域づくりに貢献したい。



取組名	コミュニティ・スクールの仕組みを生かした取組（防犯・交通安全・防災）		
特徴	行政による出前講座の積極的な活用 地域・保護者との連携		
学校名	下松市立中村小学校	期日	令和6年 5月22日（水曜日） 令和6年 6月21日（金曜日） 令和6年10月25日（金曜日）

## 1 ねらい

安全教育に高い専門性をもつ県・市職員、警察職員との連携を通して、保護者・地域とともに、児童が安全・安心な生活を送るための対策を考えたり、児童の安全意識を高めたりする。

## 2 概要

### (1) 通学路危険箇所点検

Googleフォームで保護者アンケートを実施。それをもとに教員・PTA・専門家（警察職員、市生活安全課担当者、市土木課担当者）で4つのグループに分かれて、通学路の様子を見て回り、点検した。点検後は全体で集まり、交通安全面、生活安全面、防災面での気づきや対策について協議した。



通学路危険箇所点検

### (2) 防災学習4年

市防災危機管理課を指導者として、4年生対象に防災学習講座を実施した。児童は、身近で起きた災害やハザードマップの見方について学ぶことで、校区内でいつ災害が起きてもおかしくないと感じ取ることができた。また、本校体育館が市指定の避難場所であるため、段ボールベッドや簡易テントの設営の仕方について体験を通して学んだ。

これにより自助・共助・公助の意識を高めることができた。この防災学習講座をきっかけとし、総合的な学習の時間に防災について調べたり、防災を観点とし、校区の危険箇所を4年児童と保護者が調査する活動を行ったりした。

参観日には、調べたことをグループごとにまとめ、保護者の前で発表した。



4年 簡易テントの設営体験

### (3) 防災学習講座6年

県防災危機管理課を指導者として6年生対象に防災学習講座を実施した。学校運営協議会委員、地域住民、保護者とともに、VR・AR機器を用いて震災・浸水害の擬似体験し災害の恐ろしさについて学んだ。また、避難カードの作成の仕方について学ぶなど、事前の備えの大切さや災害時にとるべき対応について理解と関心を深めた。



4年 参観日(防災発表会)

## 3 成果と今後の課題等

行政による出前講座を積極的に活用したり、保護者、地域住民が児童とともに安全について学ぶ場を設定したりすることで、学校を核とし、地域住民の安全に対する意識を高める機会をつくることができた。

今後も、実効性のある訓練等を実施したり、年間を通して安全教育を行ったりすることで、万が一に備えて適切な行動がとれるようにしていきたい。



6年 防災学習講座

取組名	不審者対応避難訓練		
特徴	光警察署と連携した不審者対応避難訓練の実施 事前に日時を告げない避難訓練の実施		
学校名	光市立島田小学校	期日	令和6年9月25日（水曜日）

## 1 ねらい

- 不審者が学校内に侵入したときの連携・対応について確認し、不審者等に対する児童の安全確保に努める

## 2 概要

### (1) 不審者対応避難訓練

- ・ 業間休みの運動場に不審者が侵入したことを想定して訓練を実施した。
- ・ 児童は以下の3点を重点的に訓練した。
  - ①運動場に教職員がいない状況であることから、不審者を発見した児童がまずは大人に状況を正確に知らせること。
  - ②教職員の指示に従い、運動場から教室に素早く避難すること。
  - ③安全が確認されるまで各教室で静かに待つこと。
- ・ 教職員は以下の3点を重点的に訓練した。
  - ①児童から連絡を受けた教職員が適切に状況を整理し、役割分担を行うこと。
  - ②不審者への声かけ等、適切な対応を行うこと。
  - ③担当するクラス以外にも目を配り、教職員同士が連携、児童管理に努めること。
- ・ 訓練終了後、全校児童が体育館に集まり、光警察署の方、少年安全サポーターの方から「いかのおすし」の「知らせる」ことの大切さやポイント、難しさについて実演を交えながらアドバイスをいただいた。



教職員の対応



避難の様子

## 3 成果と今後の課題等

- 不審者に対する教職員の対応、児童への指示、役割分担などについては今までの訓練の成果が生かされており、警察の方からも価値付けていただくことができた。
- ブラインド方式の避難訓練は数年間行っておらず、課題が多く見られた。特に児童の学校敷地内での危機意識は低く、不審者に対して自ら近付いてしまう児童も多く見られた。日頃から安全意識の啓発を続け、児童が自らの命を守るための行動ができるよう指導していく必要がある。
- 児童・教職員ともに実際に想定し、様々な危機状況を想定した訓練をしていく必要がある。今後は、管理職不在を想定した避難訓練や校区の島田中学校と連携した避難訓練・引き渡し訓練を計画するなど、より実践的な避難訓練となるようにしていきたい。



訓練終了後の講話の様子

取組名	地域と連携した防災マップ作り		
特徴	専門家との連携、地域住民との熟議（防災マップ作り）によって、防災の意識を高めた。		
学校名	山口市立白石小学校	期日	令和6年9月12日（木曜日） 令和6年10月7日（月曜日）

### 1 ねらい（地震避難訓練と防災マップ作り熟議）

- 地震災害時に自分の命を自分で守ることができるようにするとともに、防災アドバイザーの話聞くことによって、防災や減災に対する児童の意識を高める。
- 地域の方との熟議での防災マップ作りを通して、児童が自らの命を守る「主体的に行動する態度」を育成するとともに、地域への愛着心、地域連携を醸成させる。

### 2 概要

#### (1) 地震避難訓練・防災アドバイザーの講義

- ・ 令和6年9月12日（木曜日）に地震の避難訓練を実施。実際に地震発生直前の警報や地震音源を放送で流し、命を守る行動を取った。今回は余震が来ることも想定して、本震→余震の2回の避難行動を取った。
- ・ 防災アドバイザーの講義では、周りを見て、危険な物から離れて自分の命を守るための行動をすることや外で地震が起きた時の注意点について指導を受けた。



命を守る行動の様子



防災アドバイザーの講義

#### (2) 白石地区の防災マップ作り（熟議）

- ・ 令和6年10月7日（月曜日）に5年生の1クラスで実施。
- ・ 市防災危機管理課の方による白石地区のハザードマップについての講義
- ・ 学校運営協議会委員・地域住民との防災マップ作り（熟議）



熟議の様子



市防災危機管理課の講義

### 3 成果と今後の課題等

- 実際に警報や地震音源の放送（本震・余震）を2回流したが、児童は落ち着いて避難行動を取ることができた。外に避難するのではなく、今回は防災アドバイザーの講義を聞くことで防災についての知識を得ることができてよかった。教師が児童への声掛けや見守りをしていて、教師自身が命を守る行動ができていない点について、防災アドバイザーより助言があった。
- 熟議では、子どもたちが調べた危険箇所だけでなく、地域の方から新たな視点を与えてもらえ、自分の住んでいる地域の防災について深く考えることができる貴重な経験となった。

取組名	自衛隊、消防、警察、地域と連携した防災訓練		
特徴	近隣に位置する関係機関と連携することでたくさんの機関に支えられていることを実感した。		
学校名	防府市立華城小学校	期日	令和6年11月12日（火曜日）

### 1 ねらい

- 訓練を通して、児童教職員共に冷静に判断し、安全に避難し、自他の生命を守ることができる力を高める。
- 自衛隊、消防、警察、地域の防災士会と連携することで、訓練の内容を充実させる。
- 自衛隊、消防、警察の装備品展示、活動展示を見学することで、いざというときにたくさんの機関に支えられていることを実感する機会とする。

### 2 概要

- ・ 令和6年11月12日（火曜日）に自衛隊、消防、警察、地域の防災士会と連携した地震対応避難訓練を実施した。各教室で事前指導を行い、授業中に緊急放送を流し、グラウンドに避難した。
- ・ 華城幼稚園も合流して、自衛隊、消防、警察の車両やパネル、装備品を6か所に分かれて10分間ずつ学年ごとに見学した。
- ・ 警察のレスキュー活動、消防の放水活動、自衛隊のヘリによる救助活動を見学した。



防災士会からの講評



消防による装備品展示



園児と共に警察のレスキュー活動見学



児童代表による放水活動体験



自衛隊ヘリによる救助活動見学



3機関へのお礼のあいさつ

### 3 成果と今後の課題等

3つの機関が発災時にどのように備えているか、物と解説の両方がそろっていたので児童は支えられていることを実感することができた。今後は、公助が充実している校区であることを自覚しつつ、児童の自助や共助の面を伸ばす訓練を進めていく。

また、隣接する華城幼稚園と見学を共にすることができた点は、今後の幼小連携を推進する大きな一歩となった。これを機に引渡し訓練など共に実施できることを増やし、災害への対応力を上げていく。

取組名	避難訓練を生かした全学級の「防災学習」		
特徴	これまでの避難訓練を振り返り、児童が自分事として防災について考えることができる学級活動の授業を行った。		
学校名	防府市立右田小学校	期日	令和6年10月10日(木曜日) 令和6年11月18日(月曜日)

## 1 ねらい

- いつ何時起こるか分からない自然災害や二次被害に対して、児童・教職員一人ひとりの防災意識の向上を図る。また、非常時に備え、集団による避難経路の確認と迅速かつ安全に避難する方法を身に付ける。
- 教職員は、防災について正しく理解し、学級活動で児童へ指導することができるようにする。児童は、いつ起こるか分からない災害から身を守るため、自分事として考え、命を守る行動を取ることができるようにする。

## 2 概要

### (1) 避難訓練

- ・ 令和6年10月10日(木曜日)に地震・火災を想定した避難訓練を実施。児童には事前に日時を伝えている。
- ・ 授業の途中に災害発生を想定し、安全行動を取った後、火災から身を守るため校舎から一番遠い場所へ避難した。



避難訓練の様子



避難訓練後のアンケート(一部)

### (2) アンケートの実施

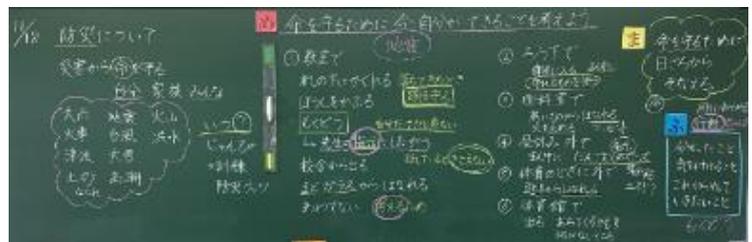
- ・ 避難訓練実施後、教職員へ向けてアンケートを実施。教職員や児童の動きについて振り返っている。

### (3) 防災学習

- ・ 11月18日(月)に安全担当教員が授業を公開し全校体制で研修を実施。
- ・ 全学級が学級活動にてKYT資料を活用した防災学習を実施。
- ・ 授業では、児童が自分事として学習に取り組むことができるよう右田地区で起きた過去の災害記録を見せ、必要感をもたせた。



授業の振り返り(児童)



防災学習 板書(4年)

## 3 成果と今後の課題等

- 避難訓練では、概ね黙って行動していたが、「どうせいつもの訓練だ」といった発言が聞こえ、児童のためにはなっていない様子が見られた。教職員向けのアンケートでは、訓練を通しての気づきが多く挙がっていた。このことから11月の学級活動を実施した。
- 授業で防災について十分な時間を取ることで、児童はより真剣に命を守る行動について考えを深める姿があり、教職員も研修から得たことを生かして指導に当たっていた。
- 誰もが防災について自分事として考えることができているので、児童には日時を指定しない避難訓練を実施する等、日頃から防災意識を高める取組を行う必要がある。

取組名	夏休み前の指導が大切、着衣水泳		
特徴	夏休みを迎える前に、水の事故防止のため、着衣水泳と、ペットボトルや袋を使って自分の命を守る活動を学んだ。		
学校名	防府市立玉祖小学校	期日	令和6年7月10日(水曜日)

## 1 ねらい

- 水の事故を未然に防止するために、着衣した状態で泳ぐことの難しさを身をもって体験する。
- 万が一、不慮の事故に出会ったときに、落ち着いて自分の命を守る行動を取ることができる。

## 2 概要

### (1) 当日までの準備

- ・ 教頭が、日本赤十字社の職員によるプールでの救命救急講習を受講しており、企画・指導を行った。児童には、普段着とペットボトルを用意させ、教頭は70Lサイズのビニール袋を用意した。

### (2) 当日の様子

- ・ プールサイドに、水着の上に普段着を着用した状態で整列させ、順次入水させた。生地の薄い服が体に張り付く感覚や、水を吸った服が重くなり、水中で動きにくい感覚を体験した。声をあげたり、恐る恐る水中で歩いたりする様子が見られた。
- ・ 実際に泳いでみるように指示を出したところ、「服が体に張り付いて、思っていたより泳ぎにくい」という声が多く聞かれた。泳ぎが上手な児童でさえ、こういった感想を言うことから、泳ぎが苦手な児童にとっては、万が一溺れかけるような状況下になった時、パニックになるであろうことが予測された。
- ・ ペットボトルや大きめのビニール袋を使って浮く体験活動を行った。ペットボトルは500mlから1.5lまでサイズは様々であったが、浮く感覚をつかむと500mlのものでも上手に浮く児童も見られた。ビニール袋は、空気を袋に取り込むように水の中に入れると大きく膨らみ浮き輪の代わりになることを伝え、体験させた。ペットボトルに比べてコツが難しく、上手に浮けた児童は数名であった。
- ・ 最後に誰かが溺れているような状況に遭遇したとき、救命道具の代わりとなるペットボトルやビニール袋に少量の水か、砂などを入れると、より遠くに飛ばすことができる活動を行った。そして「まずは大声を出して、周りの大人に知らせること」「慌てず、身近にある物を使って、人を助けること」「自分の命も大切であり、助けようとして無理をしてはいけないこと」を児童に伝えた。



## 3 成果と今後の課題等

- 身の回りにあるものを使い、自分の命を守る方法が学習することができた。
- 全国的に水による事故が後を絶たないことから、着衣水泳については、高学年を中心に継続的に取り組むべき活動であると認識している。講師についても、今後日本赤十字社等関係諸機関と連携を取りながら、内容の充実を図っていきたい。

取組名	デジタルハザードマップを活用した防災授業とプラインド型避難訓練		
特徴	大学・市防災部局・地域との連携による防災学習と避難訓練		
学校名	宇部市立西宇部小学校	期日	令和6年10月22日(火曜日) 令和6年11月7日(木曜日)

## 1 ねらい

- 一人ひとりの防災意識の向上を図り、自ら判断し、安全に行動できる力を養う。

## 2 概要

### (1) ハザードマップで危険確認、段ボールベッドの作成

- ・ 令和6年10月22日(火曜日)に出張防災授業を実施。6年生41人が、防災ネットワーク宇部の理事長で山口大学の三浦房紀名誉教授からデジタルハザードマップの使い方を学んだ。
- ・ 一人一台端末を使って、児童は自宅周辺の危険箇所を確認した。2022年に宇部市が同団体と共同で開発したデジタルハザードマップを使い、校区内の土砂災害、洪水、高潮などの危険度を確認した。その後、自宅や通学路にどんな危険があるかを調べた。
- ・ 市の職員から避難所で使う段ボールベッドの作り方を学び、4グループに分かれて作成。作成したベッドに横たわった児童らは、その耐久性に驚いていた。



【山大教授による防災授業】



【デジタルハザードマップで確認】



【段ボールベッド作成】

### (2) プラインド型避難訓練(地震・火災)

- ・ 令和6年11月7日(木曜日)9時25分地震発生。家庭科室から出火。運動場への緊急避難。
- ・ 事前指導(KYT)の内容が再現されているかの見取り。4分以内に避難完了。
- ・ 宇部西消防署からの指導。命を守る避難は、0点か100点のどちらかしかないと教わった。
- ・ 消火器の実地訓練。高学年児童4名、若手教員3名が水消火器を使って訓練した。
- ・ 消防車の消火ホースを使った放水訓練の見学。その後、各学級での事後指導を行った。



【避難完了】



【水消火器を使った訓練】



【消防車からの放水見学】

## 3 成果と今後の課題等

- 専門家と連携した学習により、児童が真剣に防災学習や避難訓練に取り組む姿が見られ、教員の研修にも繋がった。地域の関係者も参加して下さった。連携を続けていきたい。
- 全学級が避難訓練の事前指導に取り組んだことで、日時を知らせなかったが、指示に従って、怪我なく迅速に避難を完了できた。
- 命を守る自主防災の観点から、児童自らが主体的に動く仕組みをつくらしていきたい。また休み時間等、児童が散らばっている状況での避難訓練を行い、自主的な行動力を育てたい。

取組名	全校引き渡し下校訓練		
特徴	学校周辺道路の動線や校内の引き渡し経路を工夫し、迅速な避難と児童、保護者、教職員の防災意識の高揚を図る。		
学校名	美祢市立大嶺小学校	期日	令和6年11月1日（金曜日）

## 1 ねらい

- 緊急時における児童の安全を確保するため、児童引き渡し時の教職員の役割を確認するとともに、保護者と児童の動きの見直しを図る。
- 教職員だけでなく、児童、保護者とともに、緊急時における「自助・共助・公助」の力を身に付け、危機管理意識を高める。

## 2 概要

### (1) 課題

- ・ 学校周辺の道路が狭隘であるため、保護者の送迎車による交通渋滞、また交通事故等のトラブルを防止し、迅速な児童の引き渡しを行うこと。



周辺地域への周知



迅速な避難のための工夫



交通課との協力

### (2) 全校引き渡し下校訓練の実施と対策事項

- ・ 令和6年11月1日（金曜日）に全校引き渡し下校訓練を実施。運動場を駐車場として開放し、入庫と出庫、経路を完全に一方通行で行うとともに、迎え時の混雑を防止するため、児童の引き渡しを前半と後半に分け、前半を下学年、後半を上学年として実施。その際、下学年にきょうだいがいる場合、一番下のきょうだいのクラスに移動し、保護者にまとめて引き渡しが行えるようにした。
- ・ 各教室で素早く担任が引き渡しを行えるよう、入口の昇降口で一括受付を行った。その際、保護者の名札を引き渡し確認証とし、在籍児童の保護者であるかを確認した。名札がない場合は、引き渡し確認のための書類をその場で記入してもらい、確実に本校在籍児童の保護者であることを確認できるようにした。



全校一括受付



避難経路の分散



避難経路の分散

## 3 成果と今後の課題等

約6年ぶりの全校引き渡し下校訓練であった上に、当日は、天候が悪く、土砂降りの雨が降っていたが、保護者、児童ともに落ち着いて安全に引き渡しを行うことができた。

道路の狭隘が懸念されていたが、保護者は事前に配布された校外、校内避難経路をきちんと守り、車のトラブルもなく、安全に全校の引き渡し下校訓練を完了することができた。

今回は、小学校のみの引き渡し下校訓練であったが、実際には、大嶺中学校区一斉に引き渡しとなる可能性が十分ありうるため、大嶺中学校や各児童クラブと連携し、合同の引き渡し下校訓練を行うことも必要である。

取組名	有帆地区合同防災訓練		
特徴	地域（有帆地区セーフティーネットワーク）と連携した防災訓練を実施した。		
学校名	山陽小野田市立有帆小学校	期日	令和6年10月5日（土曜日）

## 1 ねらい

- 地域全体で防災訓練を実施し、体験・経験することで、全体の防災力を高める。
- 地域全体が共通意識をもって緊急時の行動を考え、訓練することで、全体のつながりを強くする。

## 2 概要

### (1) 訓練の内容

- ①地震 ⇒ 火災対応の避難訓練
- ②一次避難場所への移動訓練
- ③防災訓練



### (2) 当日の流れ

- ①想定
  - ・学活の時間に地震が発生。その後、理科室より出火した。
- ②訓練
  - 9:40 地震発生 ⇒ 火災発生 ⇒ 避難開始  
⇒ 運動場（一次避難場所）
  - 9:48 避難完了
  - 9:50 講評他
  - 10:00 防災訓練体験（運動場で保護者と一緒に実施）
    - ・消防車放水体験 ・水消火器体験 ・煙体験
    - ※学年ごとに3つの体験を行った。
  - 10:50 終了 ⇒ 移動
  - 11:00 上学年：体育館でAED体験を実施  
下学年：多目的ホールで段ボールベッドと簡易担架の作成と活用体験
  - 11:50 終了 ⇒ 親子下校 ⇒ 有帆地域交流センター
  - 12:20 炊き出し訓練 ⇒ 炊き出し配布



## 3 成果と今後の課題等

### (1) 成果

今年度で、7回目の合同防災訓練となった。まず、発生した際のシェイクアウト訓練を保護者も一緒に実施した。その後、運動場や室内で、様々な防災訓練体験を行った。本番は、あってはいけないことだが、いざという時のために訓練は必要であることを改めて実感する良い機会となった。

### (2) 課題

本校では、年間を通して「火災」「地震」「洪水」「不審者」「引き渡し」の訓練を計画的に実施している。今後は、自分で考え判断し行動できる児童を育てていく上でもブラインド型の避難訓練を実施していく予定である。

また、訓練の中で児童・保護者と、地域の方との連携した取組を会議の中で提案していきたい。



取組名	もしもに備えて シミュレーション（エピペン®・AED）		
特徴	校内で起こりうる事態に備えて、緊急対応演習を実施		
学校名	山陽小野田市立厚狭小学校	期日	令和6年8月28日（水曜日）

### 1 ねらい（エピペン®・AED）

- 緊急時に備え緊急対応訓練を行うことを通して、対応の仕方を再確認するとともに、教職員の危機管理意識を高める。
- 訓練の振り返りを行い、対応の改善を図る。

### 2 概要

夏季休業中に教職員研修を実施。「アレルギー対応が必要な児童が1時間目の終わりに朝から調子が悪くなり、吐き気を訴えてトイレに行く。児童は教室に戻ってくると、うずくまり、息が荒くなり次第に意識がなくなる。」という本校で起こりうる事例を想定して、救急隊が到着するまでの演習を行った。また今回の演習では、校長及び養護教諭不在の対応及びアクションカードの活用実証を行った。



体調不良児童の確認



アクションカードを活用して救急署の要請する職員及び他の児童を移動させる教員



内線を使って職員室へ連絡



現場へAEDを持参



記録を取る教員



複数教員で心肺蘇生を実施

### 3 成果と今後の課題等

- 演習を実施して振り返りの中で、「アクションカードは、役割分担と活動内容を明確にできて有効であったこと」「指示伝達は端的に行うこと」「子どもの様子や状況把握するためには紙で書くだけでなく黒板に書くことで有効であったこと」など全教職員で共有することができた。
- 計画的に想定できる危機対応研修を今後も行っていきたい。

取組名	幼保こ小連携を生かした避難訓練		
特徴	地震および津波発生を想定した垂直避難訓練（豊浦こども園との合同訓練）		
学校名	下関市立豊浦小学校	期日	令和6年10月30日（水曜日）

## 1 ねらい

- 地震発生時での基本的な行動様式を身に付けるとともに、秩序正しく敏速、安全に避難できるようにする。
- 地震が津波を引き起こす場合があること、津波特別警報発令時には、高台への避難が大切なことについて理解するとともに、津波に対する警戒避難（校舎3階以上）が安全かつ迅速にできるようにする。
- 災害時には学校が地域の避難所になることを知り、地域の方とともに避難できるようにする。

## 2 概要

### ◎ 隣接する豊浦こども園との合同避難訓練

（震度5強の地震発生、地震発生から数分後に数mの津波が関門海峡に到達と想定）

- ・ 令和6年10月30日（水曜日）9時30分に地震発生を想定。実際の緊急地震速報音を流し、机の下に入ったり、頭を守る姿勢をとったりといった危機回避行動を指示。職員室にいた教員で被害状況や避難経路の確認を行う。
- ・ 9時35分に津波警報発令を想定し、実際の警報音を流す。避難経路確認後、高所避難開始。
- ・ 9時40分に豊浦こども園から園児が到着し、本校舎4階に避難開始。
- ・ スプレッドシートを使って誘導者が児童の人員確認を行う。
- ・ 全員の無事を確認したのち、校長講話。
- ・ 豊浦こども園園児は1年生の教室で一緒に振り返りを行う。



## 3 成果と今後の課題等

- 実際の災害を想定し、担任以外の教員が避難誘導をしたクラスや運動場や体育館から避難をしたクラスもあったが、児童は混乱なく落ち着いて避難することができた。
- 園児は「小学校に行く」という楽しいイメージが先行して、あまり緊張感のない子どももいたが、小学生の真剣な訓練の様子にふれ、神妙な面持ちで訓練に参加できた。訓練後には年長児と1年生児童との合同で動画やクイズを用いた振り返りを行い、災害時の行動について理解を深めることができた。
- 小学生は、園児とともに避難したことで、災害時に本校児童以外の住民等が避難してくるイメージをもつことができた。災害時に園児や地域住民が避難してくるルートや避難場所等について、複数の可能性を想定したうえで児童の避難経路を計画する必要がある。
- 現在、災害時用物資を体育館に保管している。しかし高潮や津波といった水害の際には高所避難を選択すると思われるため、物資の保管場所を再検討しなければならない。

取組名	学校・家庭・地域の連携・協働による防災をテーマにした体験活動及び熟議の実施		
特徴	中学校区全体で、菊川中学校区地域学校協働本部と菊川地区まちづくり協議会町PTA連合会、自治会連合会、行政機関等の連携により、自助・共助・公助を促す体験活動及び熟議を行った。		
学校名	下関市立檜崎小学校	期日	令和6年8月6日（火曜日）

## 1 ねらい

- 中学校区全体で、学校・家庭・地域の連携・協働をとおして、児童・生徒、教職員、保護者、地域住民等の「自助・共助・公助」の意識、資質・能力を高める。
- 熟議や体験活動にとともに取り組むことをとおして、災害時に有効とされる地域内の人のつながりを広げ、深める。

## 2 概要

### (1) 防災をテーマにした体験活動・熟議の実施

- ・4～7月に、菊川中学校区地域学校協働本部を中心に、まちづくり協議会、自治会連合会、防災士、行政（防災担当部署等）等と連携を図りながら、計画を立案した。学校の意見は教頭が集約し、地域学校協働活動推進員とともに計画を練っていった。

### (2) 防災をテーマにした体験活動を含む熟議の実施

- ・令和6年8月6日（火曜日）に、以下の体験活動・熟議を実施した。
- ・防災士からの話、ハザードマップの確認・話し合い、防災アプリの使い方研修：高齢の住民には児童・生徒がスマートフォン操作を支援した。
- ・段ボールベッド、簡易トイレの設営体験
- ・「マイタイムライン」（災害時の避難行動に係る計画）の作成・協議：災害時の対応について同じ地区の住民（児童・生徒・保護者含む）同士で熟議を行った。
- ・非常食の準備（調理）及び試食、災害VR体験



ハザードマップ、万が一の避難場所の確認



段ボールベッド、簡易トイレの設営体験



マイタイムラインの作成  
災害時対応について協議



非常食準備・試食体験、VRによる災害体験



## 3 成果と今後の課題等

- 災害時にどのように行動するべきか、同じ地域に住んだり働いたりしている者同士が、世代や立場を超えて、具体的な内容に踏み込んで話し合うことができ、万が一の事態に備える意識を全体として高めることができた。
- 災害時に有効とされる人のつながりを広げ、深めることができた。児童・生徒や保護者のみならず、教職員も顔と名前がわかる関係を地域内に広げることができたと考える。
- 今後もこのような防災への取組を、関係機関との連携を図りながら、内容等を変えて定期的に、地域ぐるみで行っていくことが重要と考える。

取組名	地震対応避難訓練		
特徴	ICTを活用して事前指導を行い、児童には予告なしで実施		
学校名	萩市立明倫小学校	期日	令和6年2月7日（水曜日）

## 1 ねらい

- 教師については、災害の状況を的確に判断し、児童を安全に避難させる能力や態度を培う。
- 児童については、災害の状況を判断し、指示に従って安全に避難する能力や態度、および自分の身は自分で守ろうとする意識を培う。
- 「予告なし（児童のみ）休み時間中」の実施における判断や、指示に従う能力や態度を培う。

## 2 概要

### (1) 学年に応じた事前指導を行う。（今回は児童のみ予告なし。）

- ・前週に「来週のいつか、避難訓練がある」ことを事前に伝えて、具体的にどのように行動（避難）すればよいかを確認する時間をとる。（KYT学習、NHK for School等）

※KYT学習：危機管理・危険予測学習(KYT) - 山口県ホームページ (yamaguchi.lg.jp)  
 NHK for School：いま知りたい地震（じしん）のこと | NHK for School



KYT学習



NHK for School

### (2) 児童への事前確認・指導事項

- 地震が起きた時の訓練であること（授業中か休み時間かは分からない）
  - 屋外：校舎から離れてしゃがむ（屋内に戻らない）
    - （放送後）各自で運動場集合場所に避難
  - 屋内：揺れがおさまるまで机の下などに身をかがめる。
    - 廊下、トイレなど、教室外にいても安全な場所を判断して動かない。
    - （放送後）揺れがおさまったら、落ち着いて各教室に帰る
    - （放送後）教員の指示で運動場集合場所に避難
- 教師の指示や放送をよく聞く、落ち着く（声を出さない）、むやみに避難しない
  - ・火災が起きるかもしれない。
  - ・崩れているところがあるかもしれない。
  - ・無秩序に避難をするとパニックになる。
- ※自分で判断することは大事であるが、各々が勝手に動くと集団がパニックに陥り大変危険な状態になることを学年に応じて説明する。
- 避難について
  - ・火災が起きる、津波が来る、余震（または本震）があるなど、二次災害に備えて避難をする。（基本的には屋外、運動場など）
  - ・津波の場合は、2階や3階に避難することが考えられる。
  - ・おはしも（おさない・走らない・しゃべらない・もどらない）の徹底

- ・上靴のまま避難、赤白帽子着用、室内は急ぎ足、屋外は駆け足
- ・1学期の火災避難訓練の様子を振り返り、指導する。

### 3 成果と今後の課題等

#### (1) ICTを活用した事前指導について

事後の反省に、「事前指導用にKYT資料やNHK for schoolの番組が紹介されていたので活用したが、とても効果的であった」という記述が見られた。

県教育庁学校安全・体育課が作成しているKYT学習は、1枚ずつのスライドで構成されているため、短い時間で効果的に指導することができる。また、NHK for schoolでは、地震が特集されており、発達の段階に応じた短い動画が複数掲載されていて、学年に応じた指導に活用することができた。どちらの資料も、学級全体の指導で利用できるだけでなく、個別の指導においても効果的に活用できると感じた。

真剣に避難訓練に取り組ませるためにも、地震について具体的なイメージをもたせることができるこれらの資料は、これからも有効活用していきたい。

#### (2) 予告なしでの避難訓練について

年度内で初めての予告なしの訓練を実施した。休み時間に訓練開始の放送をかけたことで児童は教室や廊下、トイレや運動場など、思い思いの場所にいたが、事前に具体的な指導をしていたこともあり、概ね落ち着いた行動ができていた。ただ、避難方法や経路については、改善点が見られた。

避難方法については、地震発生放送後、揺れがおさまったという放送の中で、校舎にいる児童は一旦教室に戻るよう指示した。校舎内にいる児童を教室で把握するためである。事後の反省には、「実際の地震の際には、校舎のどこにいたとしても、その場からの避難も考えられないか。」という意見があった。実際の危険性や児童の現状等を考慮して避難方法を見直す必要もあると感じた。

また、今回の訓練では、前日から天候について不安があり、運動場に避難できないことも考えられた。避難経路については、雨の日一旦体育館に避難となった際の経路については想定していなかったため、今後、雨が降った時にも対応できるように、経路を考えておく必要がある。

今回の訓練では、児童に対してのみ予告なしであったが、今後の工夫としては、一部の教職員のみ把握で予告なしの訓練であったり、管理職不在の状況で訓練を実施したりということも考えられる。実際にあってはならないことであるが、万が一の事態にも対応できるような訓練をこれからも実施していきたい。



休み時間にいた場所から避難完了



取組名	山口県防災危機管理課による 防災体験学習		
特徴	AR機器を用いた浸水体験、VR機器を用いた地震体験		
学校名	萩市立川上小学校	期日	令和6年11月11日（月曜日）

## 1 ねらい

- 周囲が浸水した状況を体験し、大雨による土砂災害の危険性を知る。
- 風水害、土砂災害など、身近で起きた過去の災害の状況を確認し、必要な備えを学ぶ。
- ARで体験した状況が、実際に発生していることを学ぶ。
- 避難カードを作成し、家庭や地域で災害に備える。

## 2 概要

(1) 令和6年11月11日（月曜日）に全児童（13名）が体育館で実施。

(2) 地域の防災士の方々も来てくださり、助言をいただいた。

### (3) 内容

- ・まず、山口県防災課職員による講義を聞き、災害とはどういうものなのかを確認。
- ・次に2グループに分かれて、AR機器を用いた浸水体験とVR機器を用いた地震体験を交代で行った。児童が体験を終えてから、教職員も体験した。
- ・最後に、川上地域のハザードマップを見ながら、避難カードを作成していった。避難カードは、一度家庭に持ち帰り保護者と一緒に完成させた。完成した避難カードは、学校で確認した後、家庭で活用するようにした。



県防災危機管理課の方による防災講義



AR機器を用いた浸水体験



VR機器を用いた地震体験



避難カード作成

## 3 成果と今後の課題等

学校での避難に関しては指導できるが、家庭での避難については、各家庭で事情が異なるため保護者の方にお問い合わせするしかない。今回は、避難カードの作成を通して、各家庭での避難について子どもと保護者で考えてもらった。

今後は、各家庭で作成した避難カードを学校で紹介し合うなどして、①いつ・どこに逃げるのか②避難のときに持ち出すものは何がよいのか③避難するとき頼りにする人はどんな人なのか④一緒に逃げる人⑤声をかけ合って避難することの大切さ、などについて情報を共有し防災意識をさらに高めていきたい。

取組名	小中が連携した訓練や地域と連携した安全教育の取組		
特徴	小中一貫教育校合同での訓練実施や地域に出向いての防災活動により、安全管理体制の充実と防災意識の高揚を図った。		
学校名	萩市立佐々並小学校	期日	令和6年6月15日（土曜日） 令和6年6月21日（金曜日） 令和6年11月11日（月曜日）

## 1 ねらい

- 自分の命を自分で守ろうとする意識を高めることができる。（自助）
- 災害や事件が起きた際の組織的な安全管理体制を構築することができる。（共助）

## 2 概要

### (1) 小中一貫教育校合同の児童生徒引き渡し訓練

- ・ 令和6年6月15日（土曜日）に、小中一貫教育校である明木小・旭中学校と合同で児童生徒引き渡し訓練を実施。
- ・ 一斉メールで引き渡しの連絡を受けた佐々並小・明木小・旭中学校の保護者が、明木小・旭中学校の体育館へ来校し児童生徒の引き渡しを行った。
- ・ 佐々並小5・6年生児童は、毎週木曜日に明木小・旭中学校へ移動して1日日程で交流学习を行っており、その他の学年も定期的な交流学习を行っている。交流学习時のいざという時にもスムーズな引き渡しを行うことができるよう、流れを確認することができた。



体育館への集合

### (2) 昼休み中における不審者侵入ブラインド型避難訓練

- ・ 令和6年6月21日（金曜日）の昼休みに、不審者侵入を想定した避難訓練を実施。児童には日時を告げずに、教職員には、不審者の侵入場所を予告せずに行った。
- ・ 当日は雨天であったため、全校児童の多くが体育館で昼休みを過ごしていた。体育館に突然現れた不審者役に対して教員1名が声をかけて対応する間に、児童は、不審者から遠ざかる経路を考えて体育館から脱け出し、職員室に居る教員に助けを求めることができた。上学年児童が下学年に声をかけリードする姿も見られた。
- ・ 実施までには、各学級にて「こんな時どうするか」を児童自身に考えさせたり、教職員間でも様々な状況を想定しながら職員室で協議したりする姿が多く見られた。訓練に向けてのそのようなやりとりも、学校の危機管理意識・危機管理能力を高める有意義な場となった。



職員室で身を潜める児童・教職員

### (3) 地域の消防団との火災予防啓発パレード

- ・ 令和6年11月11日（月曜日）に、地域の伝統的建造物群保存地区内を消防団とともにパレードして回った。児童は拍子木を鳴らしながら、「守りたい 未来があるから 火の用心」の元気なかけ声とともに地域内へ火災予防啓発を行った。
- ・ 地域の方への呼びかけとともに、児童自身に地域の安心・安全を守っていこうとする気持ちを育む機会となった。



防火パレードの様子

## 3 成果と今後の課題等

引き渡し訓練や避難訓練などにおいて、新たな状況設定の中での訓練に取り組むことで、児童および教職員それぞれが、安全を確保するための自身の動きを考える力を高めることができた。今後も、様々な状況を想定しながらの日頃の訓練を大事にし、いざという時に、自ら考え適切な判断のもと行動できる力を身に付けていきたい。

取組名	授業等における安全学習		
特徴	関係機関との連携やICTの利活用により、児童が主体的に行動して、周囲の人の安全に貢献できる力や自分自身の安全意識の向上を図った。		
学校名	長門市立通小学校	期日	令和6年6月21日（金曜日） 令和6年10月29日（火曜日）他

### 1 ねらい（児童等を対象にした救急救命講習と危険予測学習<KYT>資料を活用した安全学習）

- 救急救命講習を児童にも経験させることを通して、周囲の人の安全に貢献しようとする心情を醸成する。
- 危険予測学習<KYT>資料を活用し、様々な危険に気付き、自ら安全に行動できるよう危機意識や安全意識を高める。

### 2 概要

#### (1) 児童も参加する救急救命講習

- ・ 令和6年6月21日（金曜日）に、長門市消防本部職員を講師に招き、児童、保護者、教職員が参加の救急救命講習を実施した。
- ・ 心肺蘇生を中心に救急法について学んだり、実際にAEDを使用した実習を行ったりした。



心肺蘇生法について学習



AEDの使用方法的説明



実習の様子

#### (2) 危険予測学習<KYT>資料を活用した安全学習

- ・ 年間を通し危険予測学習<KYT>資料を活用した安全学習を実施した。
- ・ 電子黒板を使い一斉指導で行ったり、1人1台端末を利用し個別に学習を進めたりした。



危険把握



解決策の話合い



個別での学習

### 3 成果と今後の課題等

- 長門市消防本部職員から丁寧な説明を受け、心肺蘇生やAEDの使い方について知ることができ、周囲の人の安全について自分たちにもできることがあることに気付くことができた。
- 危険予測学習<KYT>資料を活用し、様々な危険やその回避行動について考えることができた。また、1人1台端末等を利活用することで、危険等の状況を捉えやすくなった。個別での学習にも効果的で、様々な場面における危険や安全について自ら考えることができた。
- 危機はいつどこで起こるかわからないため、AEDの操作等の経験を繰り返し行ったり、自分が住んでいる地域の危険箇所等を題材にした危険予測学習を行ったりしながら、児童自ら安全に行動できるよう危機意識や安全意識をさらに高めていかなければならない。

取組名	地域と連携した防災学習		
特徴	コミュニティ・スクールの良さを生かし、防災の意識を高めた。		
学校名	長門市立明倫小学校	期日	令和6年7月17日（水曜日） 令和6年9月19日（木曜日）

## 1 ねらい

- 日常生活の様々な場面で発生する災害（洪水、土砂災害、台風・高潮）の危険を理解し、災害発生時の安全な行動の仕方が分かる。

## 2 概要

### (1) 地区（登校班）ごとの防災学習

令和6年7月17日（水曜日）に全校で地区ごとに（登校班）に分かれて防災学習を実施。長門市防災危機管理課の方に災害の種類・リスク・避難場所等を教えていただいた。防災ネットワークや公民館の方にも来ていただき、住んでいらっしゃる地区のグループの話合いに入っていた。ハザードマップを見ながら、災害が起きた際、どのようなリスクがあり、どのような行動をとったらよいかみんなで話し合った。



防災危機管理課の方の説明



地区ごとの話合い



ハザードマップを見ながら話合い

### (2) 社会科の学習と関連付けての防災学習

4年生の社会科「自然災害からくらしを守る」の学習で、防災ネットワークの方に来ていただき、主に風水害からくらしを守るための取組についてお話いただいた。参観日には、児童は、風水害が起きた時どのような行動をとったらよいか、ハザードマップを見ながら保護者や友達と一緒に考えることができた。



ハザードマップの見方



防災ネットワークの方



班での話合い

## 3 成果と今後の課題等

- 全校での防災学習では、長門市防災危機管理課の方が、丁寧に説明をしてくださった。その後、児童は、地区ごとに災害のリスクや避難場所について真剣に話し合うことができた。
- 4年生の学習では、防災ネットワークの方が、地区で行われている取組についても詳しく説明してくださった。参観日には、保護者や同じ地区の友達とハザードマップを見ながら話し合うことで、より具体的に「自助」「共助」について考えることができた。

取組名	ICTを活用し、関係機関と連携した避難訓練		
特徴	コミュニティ・スクールのよさを生かし、関係機関と連携への意識向上		
学校名	阿武町立福賀小学校	期日	令和6年6月26日（水曜日） 令和6年9月6日（金曜日）

### 1 ねらい（不審者対応避難訓練と引渡し避難訓練、土石流対応避難訓練）

- 不審者侵入に備え、警察や関係諸機関、保護者と連携した訓練をすることを通して、学校の危機対応能力の強化と安全に関する児童の資質能力の向上を図る。
- 大雨とそれに伴う土石流が発生したという想定の下、どのような行動をとれば児童と職員全員が安全に避難することができるか考え、もしもの事態に備えることができる。

### 2 概要

#### (1) 不審者避難訓練

- ①給食室から不審者が侵入し、教職員が対応している間、児童は職員室に避難する。
- ②職員室で知らせを聞いた職員は110番通報（当日は駐在所職員の携帯電話へ）する。
- ③警察が到着し、不審者確保を確認後、保護者へ引渡しの一斉メールをながす。
- ④正面玄関にて保護者へ児童を引き渡し、児童は保護者と共に児童昇降口から靴を履き替えて下校する。
- ⑤校長室にて警察、少年安全サポーターより教職員向け指導講話を受ける。



職員が不審者対応をしている様子



引渡し避難訓練の様子

#### (2) 土石流対応避難訓練

- ①校内放送を聞いて、垂直避難を行う。
- ②自分たちの学校が土石流災害指定区域に指定されていることや土石流の被害についてICTを用いて学習し、安全な避難経路について話し合う。
- ③大雨の被害についてのKYT（危険予測学習）を行う。



ICTを活用し土石流の被害を学習する様子



児童に示したハザードマップ

### 3 成果と今後の課題等

- 本校は、どの教室も外からの侵入が可能である。職員数、児童数が少ないため、死角が多く簡単に侵入できてしまう。侵入された際に対応できる職員も少ないため、児童が自主的に行動することについて意識を高めていく必要があった。今回は少年安全サポーターに不審者役を依頼したことで、職員も自分たちだけで対応する難しさを感じ児童に素早く指示して避難を促したり、関係機関への連絡を早くしたりすることが重要であると共通理解することができた。
- 児童は校舎のある場所が土石流災害指定区域であることにショックを受けていたが、被害の様子を学習することで、安全な避難の仕方について理解することができ、落ち着きを取り戻すことができた。土石流についてはICTを活用することで被害の様子をイメージすることができていた。

取組名	地域・保育園と連携した津波想定のコ合避難訓練		
特徴	地域・保育園と連携した三角州における津波想定のコ避難訓練で、防災意識を高めた。		
学校名	岩国市立川下中学校	期日	令和6年5月10日（金曜日）

### 1 ねらい（合同避難訓練・生徒作成ヒヤリハットマップ）

- 河川に囲まれた三角州にある川下中学校の生徒と隣接する川下保育園の園児が、共同で垂直避難訓練を実施することで、津波災害発生時に安全に避難できるようになる。地域の方や消防署とも協働し、課題や成果を検証して当事者意識を高めると共に実際の災害に備える。
- 生徒が作成したヒヤリハットマップを電子化し、保護者や地域住民に広く周知する。

### 2 概要

#### (1) 地域・保育園と連携した津波想定のコ垂直避難訓練

- ・ 令和6年5月10日（金曜日）に津波を想定して校舎の屋上に垂直避難を行った。自分自身が避難すると共に、自分の安全を確保した上で保育園の園児の避難を支援した。
- ・ 学校運営協議会委員も一緒に避難訓練に参加した。これにより生徒は、学校が地域の方の避難所になることも意識して取り組むことができた。



園児とともに避難する姿



緊急地震速報後の様子



校舎屋上に避難した様子



消防署との連携

#### (2) 川下中学校区ヒヤリハットマップ作成

- ・ 生徒会執行部専門委員が中心となって、川下中学校区の交通安全上・防犯上で危険と思われる箇所をまとめた「ヒヤリハットマップ」を作成した。
- ・ 校区の小学校にも共有し、マップを活用した安全指導や地域探索が行われている。
- ・ さらにグーグルマップで見ることができるようにして、新たな情報を更新できるようにするとともに、二次元コードを活用して多くの方に紹介できるようにしている。



グーグルマップ上の危険箇所



危険箇所ごとの説明画面



「ヒヤリハットマップ」  
二次元コード

### 3 成果と今後の課題等

- 中学生が園児と手をつないで屋上に避難する共助の様子は地域の担い手としての姿であった。
- 学校運営協議会委員や消防署とも連携したことで、多くの気づきを得ることができ、課題と今後の対応策を確認することができた。
- ヒヤリハットマップを電子化したことで、多くの方に危険箇所について意識してもらえるようにすることができた。



取組名	授業における安全学習～救急蘇生法を学ぶ～		
特徴	救急蘇生の専門的な知識・技能の習得をめざし日本赤十字社から救急法指導員をゲストティーチャーとして招聘		
学校名	周防大島町立周防大島中学校	期日	令和6年7月11日（木曜日）

## 1 ねらい

- 病気や事故などで心肺停止となった人を救うために、救急蘇生についての知識・技能を習得する。
- 救急法指導員からの救急蘇生についての講話・実技指導を通して、生命を助けることの重要性を理解する。

## 2 概要

### (1) 救急蘇生について知る

- ・もし、目の前で人が倒れていたら、どうしなければならないか考える。
- ・人を助ける方法は、どのような方法があるか、グループで対話する。
- ・心肺を蘇生する方法を救急法指導員から教えていただく。

### (2) 救急蘇生を体験する（日本赤十字社から救急法指導員の講話・実技指導を受けて）

- ・心肺蘇生やAED（自動体外式除細動器）などの応急手当の方法を理解する。
- ・救急法指導員のAED（自動体外式除細動器）を使った救急蘇生法の実演から学ぶ。
- ・AED（自動体外式除細動器）を使った救急蘇生法を体験する。

### (3) 救急蘇生をいかす

- ・さまざまな場面を想定して、グループごとに人形を活用して人命救助に挑戦する。

## 3 成果と課題等

心臓が止まってしまうような重大な事故は、いつ、どこで、何が原因で起こるか分からない。また、生徒がそのような場面にいつ遭遇するかもわからない。夏休みを迎える前に救急蘇生の学習に取り組むことができたことは大変有意義である。また、専門家による知識・技能の習得も重要なことである。生徒たちは命の大切さと人を助けることの重要性を感じることができた。実際に救助しなければならない場面では躊躇するかもしれないが、周りの大人と協力しながら人を助ける行動をとることができる人として成長してほしいものである。



【教員とともに指導員からの講話・実技を受ける場面】



【グループごとに実習する場面】

取組名	緊急時引き渡し訓練の実施		
特徴	小中一貫校としての小中教職員が連携した訓練実施		
学校名	上関町立上関中学校	期日	令和6年5月29日（水曜日）

### 1 ねらい

- 大規模災害発生時に児童・生徒の安全を最優先に確保し、家庭に戻ることができる。
- 上関小・中学校合同でのスムーズな引き渡し方法を確立させる。

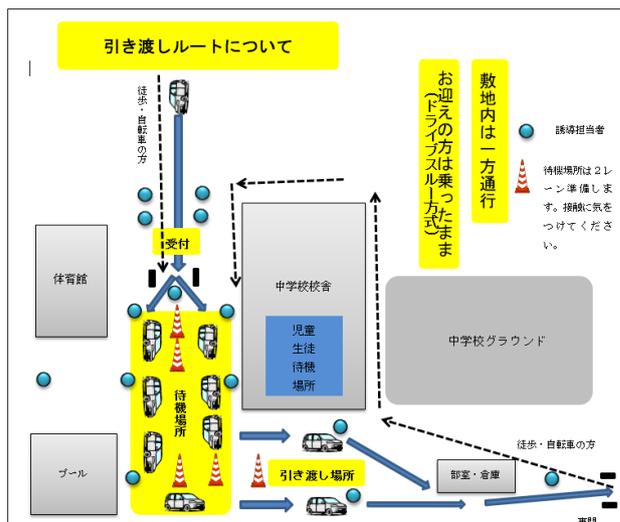
### 2 概要

#### (1) 上関小学校との合同引渡し訓練 事前の準備

- ・小中合同職員会議で、実施内容の提案及びねらいや役割分担等の確認
- ※ 受付係と呼び出し係の連携について、トランシーバーに慣れてない教職員でもやりとりが可能なように、定型文を作成 等
- ・「緊急時引き渡しカード」については、本人確認ができるものでの代用が可能であることを各家庭へ周知
- ・保護者へ実施案内の配布
- ・当日、保護者参加が困難な児童生徒、代理が迎えに来る児童・生徒の把握、及び引き取り者確認の係がきょうだい関係を把握できる生徒児童名簿の作成

#### (2) 当日の流れ

- ・災害発生：小中による協議、引き渡し決定
- ・教育委員会への報告（校長）
- ・引き渡し依頼メール配信（教頭）
- 引き渡しは学年を小4までと小5から中3の2つに分け時間差で実施すること、複数の子どもが在籍している場合は、上級生が一番下のきょうだいの時間に同時に引き渡しを行う。
- ・校内緊急放送（各教頭）
- ・避難開始（中学校校舎1階ホール）
- ・引き渡し実施



中学校校舎での人員の確認

#### (3) 訓練の検証

- ・訓練終了後の小中合同職員会議において改善点について協議

### 3 成果と今後の課題等

事前協議と準備をしっかりと行ったおかげで、スムーズに引き渡し訓練を実施することができていた。また、小中合同行事や中学教員の小学校への乗り入れ授業の実施しているため、児童生徒の把握がしやすくなり危機管理対応時に役立っている。今後は、今回の役割以外を担当したり、複数の役割を受け持つ教職員が出たりする可能性について、シミュレーションし、対応策を検討したり、家庭数の減少により、引き渡し時に車列の混雑が少なくなっているため、引き渡しルートを1レーンで実施したりするなど、安全でスムーズな引き渡しができるように計画の見直しを行っていく。



2レーンでの児童生徒受け渡し

取組名	休憩時間を想定した火災・避難訓練		
特徴	避難経路を自ら考え、行動に移すことができる		
学校名	田布施町立田布施中学校	期日	令和6年11月25日（月曜日）

## 1 ねらい

- 学校の防火・消火設備について知るとともに、非常時に安全・敏速・静粛に避難するために必要な知識や技能、態度を養う。
- 学校の危機対応能力の強化と、「自助・共助・公助」の力を身に付け、安全に関する生徒の資質能力の向上を図る。

## 2 概要

### (1) 本取組の経緯

本取組を行う前に、6月に不審者対応避難訓練を行った。不審者対応避難訓練は授業中にいき、主に教員の指示（避難経路、避難する速さ）に対し、集団行動ができるかどうかを試された。おおむね満足できる内容だった。生徒の自治能力が身に付いているかどうかは次の課題としてふさわしいと考え、「休憩時間」の設定とした。

### (2) 休憩時間を想定した

生徒は避難経路と避難するときの所作を自ら考える必要があった。教室に集まることをせずグラウンドに避難するように指示を出した。

### (3) 消防署との連携

本訓練の評価をしていただいた。

### (4) 本訓練後

生徒の自助能力を高めるために、防火扉、消火器の位置を確認した。また、教職員は消火器訓練を実施した。

## 3 成果と今後の課題等

「校舎内を走らない」「慌てない」ことが必要であるが、ほとんどの生徒が自分で避難経路を選択し、迅速な行動をとることができた。生徒からの感想では、自分が逃げるばかりを考え、周りの状況が見えていなかったことに気付いていた。

今回は突発的なアクシデントを準備し、他者の命も守る動きが求められる訓練を実施する予定である。



取組名	一次救命処置等についての校内研修		
特徴	教職員が救急法やエピペン®の使い方、異物除去について学ぶ		
学校名	平生町立平生中学校	期日	令和6年7月30日（火曜日）

## 1 ねらい

- 教職員の危機管理能力の向上を図る。
- 一次救命処置の手技について確認する。

## 2 概要

### (1) 一次救命処置についての講義・演習

- ・ 柳井地区広域消防組合職員の方々を講師に招聘し、講義・演習を行った。教職員は2グループに分かれ、心肺蘇生法やAEDの使い方について確認をした。
- ・ 救急車を要請する際に伝えるべき情報や、緊急時の校内体制等、教職員から講師へ質問をした。



(一次救命処置についての講義・演習)

### (2) エピペン®トレーナーを用いた練習

- ・ 教職員は二人一組になり、練習用エピペン®トレーナーを用いて相手の太ももに注射をする練習をした。

### (3) 異物除去についての講義

- ・ 生徒が異物を喉に詰まらせた場合の対応として、背部叩打法や腹部突き上げ法（ハイムリック法）について説明を受けた。



(背部叩打法の説明)

## 3 成果と今後の課題等

- 演習を通して、一次救命処置やエピペン®使用時の手技や留意点について学ぶことができた。
- 異物除去については、訓練用人形を用いた練習ができなかったため、実技を含んだ研修ができる機会を設けたい。
- 本校では、毎年一次救命処置の研修を行っている。安心・安全な学校づくりに向けて、研修を継続していくとともに、生徒の実態に応じた危機管理研修に取り組んでいきたい。

取組名	ミニ防災避難訓練		
特徴	10分から15分程度で、年間数回、防災避難訓練を実施する。		
学校名	下松市立久保中学校	期日	令和6年6月18日（火曜日） 令和6年9月2日（月曜日） 令和6年11月8日（金曜日） 令和7年1月8日（水曜日）

## 1 ねらい

- 短時間で防災避難訓練を実施することにより、年間数回の訓練を実施する。
- ブラインド型の訓練を実施する。
- 生徒、教職員の防災意識を高める。

## 2 概要

### (1) 安全の日に、避難経路と防災避難マニュアルの確認をする。

- ・ 給食室側の階段を使用する時と、体育館側の階段を使用する時の経路を確認する。
- ・ 体育館への避難経路と、グラウンドへの避難経路を確認する。
- ・ 避難時に必要な対応について確認する。

### (2) 避難経路別に防災避難訓練を実施する。

- ・ 給食室側の階段を使用して体育館に避難する。
- ・ 体育館側の階段を利用して体育館に避難する。
- ・ 給食室側の階段を使用してグラウンドに避難する。
- ・ 体育館側の階段を利用してグラウンドに避難する。



避難の様子

### (3) 不審者対応の避難訓練を実施する。

- ・ 緊急放送「校内キーワード」を使った避難をする。
- ・ 不審者対応の教室待機の対処法を確認する。
- ・ 避難方法については、防災避難と同様であることを確認する。

### (4) 教職員の役割を確認する。

- ・ 生徒の誘導方法を確認する。
- ・ 各階の点検確認を確実にできるように訓練する。
- ・ 上階から順に点検することを訓練する。
- ・ 特別支援学級、保健室、別室生徒の確認を確実にできるように訓練する。



緊急放送を聞いて

### (5) ブラインド型で訓練を実施する。

- ・ 第1段階として、生徒対象のブラインド型の訓練を実施し、教職員の心構えをつくった。
- ・ 第2段階として、一部の教員（管理職、教務、安全担当）のみ把握しているブラインド型の訓練を実施した。

## 3 成果と今後の課題等

ブラインド型で実施するためには、教職員の理解が大切である。そのために、段階的にブラインド型を広げていった。

ブラインド型を実施する中で、教職員の理解と知識、実施能力が高まった。ブラインド型で実施するための時間をどうやって生み出すかが課題である。現在は、清掃前や集会前の時間を使っているが、休憩時間や授業中など、学校生活のさまざまな時間を対象として、訓練を実施していきたい。

取組名	小・中学校で連携した引き渡し訓練		
特徴	小・中学校で連携した取組の1つとして今年度初めて実施した。土砂災害を想定した引き渡し訓練に臨む意識を高めるため、専門家による講演会を実施した。		
学校名	光市立島田中学校	期日	令和6年6月28日（金曜日）

## 1 ねらい

- 生徒や教員、地域住民や保護者の防災への意識の向上や連携の強化を図る。
- 緊急時や自然災害発生時に、落ち着いて保護者に引き渡せるように、引き渡しの場所や方法について、学校と家庭で確認する。
- 生徒や教員、地域住民に土砂災害発生時の交通の混乱や麻痺、渋滞の発生などを想定できるように、引き渡し訓練の前に専門家による講演会を実施する。

## 2 概要

### (1) 上島田小学校と合同の避難訓練

- ・ 訓練メールの一斉送信  
メールの内容も事前に小・中学校で打ち合わせを行い実施した。
- ・ 引き渡しの実施  
引き渡しの仕方も事前に小・中学校で打ち合わせを行い実施した。

### (2) 専門家による講演会

- ・ 県教育庁学校安全・体育課主催「専門家等と連携した防災出前授業」において、徳山工業高等専門学校准教授 目山直樹氏による、土砂災害を想定した講演会を実施した。
- ・ 光市で起きた「平成30年7月豪雨災害」についての説明、家族と避難経路を打ち合わせることの重要性など、専門家に動画や写真を使い分かりやすく説明をしていただいた。



防災講演会の様子



防災講演会の様子2

## 3 成果と今後の課題等

- 小学校と中学校の2つの引き渡し訓練に参加すると、時間がどれくらいかかるのかを想定できた。
- 引き渡し訓練時には、自家用車の学校への乗り入れの場所や向きを決めていたが、理解できていない家庭があったのが課題となった。
- 6年前に起こった「平成30年7月豪雨災害」であったが、当時は生徒が小学校の低学年であったため、何が起こったかのかが分かっていなかったが、当時の様子を生徒は把握することができた。
- 中学校は、参観日と同時に引き渡し訓練を行ったため、多くの保護者が参加することができた一方、多くの保護者が訓練メール時には学校にいる状態であったため、本番を想定した訓練になりづらい面があった。

取組名	地域貢献活動（振り込め詐欺防止）		
特徴	関係機関と連携して防犯意識を高めるとともに、地域住民（高齢者）等に向けて、文化祭での特殊詐欺防止を盛り込んだ劇や、人権教育講演会での落語による啓発を行った。		
学校名	山口市立秋穂中学校	期日	令和6年 7月 9日（火曜日） 令和6年10月26日（土曜日） 令和6年11月16日（土曜日）

## 1 ねらい

- コミュニティ・スクールは、「地域とともにある学校づくり」はもちろんのこと、少子高齢化に対応するための「学校を核とした地域づくり」の側面も担っている。そこで、学校教育目標のキーワードでもある「自立」「貢献」の一つである「貢献」について、地域に貢献する活動に取り組むことで、「ふるさと、秋穂」への思いをより高める。

## 2 概要

### (1) 県教委による安全教育の実施（7/9）

- ・ 夏休み直前、情報モラル教室に加えて、山口県教育庁学校安全・体育課の指導主事を講師に迎え、特殊詐欺被害防止についての講話を全校生徒で聴いた。



### (2) 文化祭での特殊詐欺防止を盛り込んだ学年劇（3年）の実施（10/26）

- ・ 学校教育目標のキーワードである「貢献」を、具体的な教育活動として取り組むため、文化祭の発表（3年学年劇）の中で行うことを職員会議で決定し、生徒にも説明した。
- ・ 文化祭当日は、学校運営協議会委員、山口南署生活安全課課長をはじめ、保護者や地域の方など多くの方に劇を見ていただき、大変好評であった。また、生徒の振り返りを見ると多くの生徒がやりきった達成感や地域に貢献した充実感を感じていた。



### (3) 講演会（落語）による特殊詐欺防止の啓発（11/16）

- ・ 人権教育講演会にて、塚田拓司 様(元岩国市立川下中学校校長)を講師として招聘し、特殊詐欺被害防止の内容を盛り込んだ落語を、生徒、保護者、地域の方が鑑賞した。



## 3 成果と今後の課題等

地域貢献活動に視点を置いた安全教育という初めての試みであったが、計画的に系統立てて取り組んだこと、また、関係機関としっかり連携して進めたことで、大きな成果が得られた。

取組名	地域と連携した防災教育を基盤にしたふるさと学習（1年）		
特徴	地域の防災士と協力連携し、地域で起こった災害を学習することで、防災意識の向上を図る。		
学校名	防府市立大道中学校	期日	令和6年9月6日（金曜日） 令和6年10月4日（金曜日）

### 1 ねらい（地域の防災士と連携したふるさと学習）

- 過去に地域で発生した災害について学習することで、自分の住んでいる大道という地域に興味や関心をもち、ふるさとへの愛着心の醸成を図る。
- 身近に起こった災害を知ること、地域の住民である自分たちの役割や責任について考えさせる。
- 災害について学習することで、防災意識の向上を図る。

### 2 概要

#### (1) ふるさと学習①

- ・ 令和6年9月6日（金曜日）1年生で5・6校時にふるさと学習①を実施した。5校時、地域の防災士を講師に迎え、過去に大道地域に大きな被害をもたらした災害についての講義を行った。
- ・ 6校時、市の危機管理課の職員より、段ボールベッドの作り方の実技指導を行った後、実際に段ボールベッドの設営を班に分かれ実施した。



防災士による講義



段ボールベッドの設営



#### (2) ふるさと学習②

- ・ 令和6年10月4日（金）1年生でふるさと学習②を実施した。全員で大道地域のポンプ場の見学を行い、大雨時の河川の水位の管理などの説明を聞いた。
- ・ ポンプ場をスタートとし、班ごとに台風豪雨災害や土砂災害、河川の危険箇所や過去の災害が記されている碑などを巡り、それぞれの場所の説明、体験談を聞いた。
- ・ 取材した内容を班ごとにまとめ、それを一つにまとめたものを文化祭で発表した。



ポンプ場の見学



班別の防災に関する取材活動



文化祭での発表

### 3 成果と今後の課題等

毎年、1年生の総合的な学習の時間の取組として、防災教育を基盤としたふるさと学習を実施しているため、全校生徒が大道地域での災害や防災についての意識を深められている。

今後は、その知識を活用し、さらに防災意識を高めていく教育活動をどのように展開していくことができるかを考えることが課題の一つである。

取組名	地域と連携した危険箇所マップづくり		
特徴	地域人材を生かした危険箇所マップづくりを通して、生徒の交通安全に関する資質能力を高めた。		
学校名	宇部市立厚南中学校	期日	令和6年7月26日(金曜日) 8月2日(金曜日)

## 1 ねらい

本校は宇部市の西部に位置し、厚南中校区は190号線からは離れているものの、宇部駅周辺を中心に朝夕は慢性的な渋滞が起きるほど、車両の交通量が非常に多く、いつ重大な事故などが起こってもおかしくない状況である。

そこで、交通安全への啓発活動に熱心に取り組んでいる地域の方々と生徒と一緒に通学路点検を行ったり、自転車通学路危険マップの作成を行ったりすることで、交通安全に関する生徒の資質能力の向上を図るとともに重大な事故から生徒の命を守る。

## 2 概要

### (1) 地域の方から通学路の点検の必要性の説明を受ける。

1学期の終了式後に地域の方2名（うべ交通まちづくり市民会議に所属の方）から安全なまちづくりに向けた交通安全への意識のもち方や登下校の際の安全な自転車の乗り方などについて説明を受けた。全校生徒は暑い中、真剣に話を聴いていた。説明を聴くことで改めて安全なまちづくりの必要性を感じることができたようだった。

### (2) 地域の方と一緒に校区を巡って危険箇所の現地調査

7月26日（金曜日）午前。自転車通学の生徒11名、教員3名、うべ交通まちづくり市民会議に所属の方々6名、宇部市道路整備課3名、山口県警2名で交通ルールやマナーについての事前学習を行った。交差点模型で自転車と自動車との出会い頭での衝突の危険性と左側通行の大切さについて学んだ。その後、3つの班に分かれて危険箇所の現地調査や自転車で行く際の注意点について生徒の目線で確認し、写真を撮影して2回目のワークショップに備えた。



模型を使った危険性の確認



現地調査の様子



### (3) 現地を巡っての情報の共有とマップづくり

8月2日（金曜日）午前。第2回目は会議室で地図を広げ、調査ルートに沿って現地で気が付いた危険箇所をマークし、付箋を貼って自転車通学路危険マップを作成した。「カーブミラーはあるものの曇っていて見えにくく、ミラーとして役に立っていない」など、生徒目線ならではの意見もあがり、実際に大人と一緒に現地を調査することでより危険箇所での注意の仕方について意識が高まっているようだった。



完成したマップ

### (4) 通学路の点検やマップづくりについての全校集会での発表

11月8日（金曜日）の全校集会において全校生徒に向けて自分たちが通学路点検した結果やマップづくりの様子について、約10分間発表した。全校生徒が真剣な表情で聴いており、改めて全校生徒の交通安全に対する意識が向上していることが伺えた。



全校集会での発表

## 3 成果と今後の課題等

今回の活動を通して、自転車通学の生徒については、もちろんのこと通学では自転車を使用しない生徒についても交通安全に関する資質能力をある程度高めることができたと考えられる。今後も地域人材を生かしたさらなる取組の充実を図っていきたい。

取組名	大嶺いのちを守ろう大作戦 ～「気づき、考え、実行する」生徒へ～		
特徴	生徒会が主体となり地域機関と連携した防災の取組		
学校名	美祢市立大嶺中学校	期日	令和6年12月9日（月曜日）

## 1 ねらい

- 生徒総会の議題として出された「防災・救命処置を学ぶ」を生徒の手で企画し実現することを通し、非常時に地域や家族のために行動できるよう学び体験する。

## 2 概要

### (1) 生徒総会

- ・生徒総会に向け全校生徒で取り組むことが出来るJRC活動について、事前に縦割り班で話し合った。令和6年7月4日（木曜日）の生徒総会において各班からの提案の中から地域の方と一緒に「防災・救命処置を学ぶ」を生徒会活動の一つとして実行することを決めた。

### (2) 生徒会・学校保健安全委員会コラボ企画として計画

- ・生徒会執行部、生徒会担当教員、養護教諭がチームとなり話し合いを始めた。まず、生徒自ら市役所や消防署へ電話をかけ企画の相談と打ち合わせの日時等を決定した。生徒主体で昼休みや放課後に計画的に打ち合わせを進めた。
- ・美祢市総務企画部 総務課 防災危機管理室及び美祢市消防本部の方々からご指導いただくことになった。「避難」「災害」「救命処置」の3つのブースを設け、3つの縦割り班（運動会での組）に分かれて、1ブース30分ずつで回りながら学び体験する計画を立てた。
- ・生徒だけでなく保護者や地域にも発信し、多くの方の学びの場となるように考えた。



執行部の打ち合わせの様子



指導者との打ち合わせの様子



全校集会で事前に周知

大嶺中学校 生徒会・学校保健安全委員会コラボ企画

# 大嶺いのちを守ろう 大作戦

～気づき、考え、実行する～



**日時** 12月9日(月) 13:15～15:20  
**場所** 大嶺中学校  
**内容** 避難・防災・救命処置について  
 美祢市総務企画部・美祢市消防本部の方からご指導をいただきます。  
**服装** 生徒…体操服 大人…動きやすい服装  
**持参物** スリッパ(貸出有)  
 ※自由参観日に設定しています



チラシを持参してPR活動



指導者と生徒会執行部による  
前日準備の様子

保護者・地域へ配布したチラシ

### (3) 大嶺いのちを守ろう大作戦

- ・令和6年12月9日（月曜日）に全校生徒と教職員、保護者、地域の方248名を3つの組に分け、3つのブースを順番に回る。
- ・美祢市総務企画部 総務課 防災危機管理室及び美祢市消防本部の10名の方々からご指導いただいた。
- ・「避難」のブースでは、避難のポイント、タイミング、避難情報、情報の入手方法等について学び、避難所で使用される段ボールベッドを実際に組み立てる体験をした。また、緊急消防援助隊の方が災害現場で使用されるエアートントを見学した。
- ・「災害」のブースでは、地震や水災害の際に要請を受け緊急消防援助隊が出動し活動された災害現場の土砂崩れ、倒壊家屋や冠水した道路等の写真を見ながら危険箇所、避難時の注意点や二次災害を防ぐことを学んだ。
- ・「救命処置」のブースでは、生徒会執行部が作った動画「AEDまでの往復時間」を視聴した後「搬送」「止血」の実技を行った。



体育館に設置されたエアートントを見学



完成した段ボールベッドに横たわってみる



災害現場の画像を見ながら説明を受ける



タオルを用いて止血する様子

### 3 成果と今後の課題等

生徒総会で提案されたことを生徒主体で行事を計画、運営したことは生徒にとって大きな自信となった。市役所や消防本部の方から地域の防災について学んだことを通して、防災意識の向上、また地域の一員として自分たちに何ができるかという地域貢献の意識向上にもつながった。個人としても災害時にどのように行動するべきか、自分の命は自分で守るという意識の醸成にもなった。

地域の参加者がもう少し多くなるよう、早めの計画と広報活動の工夫が必要であった。実際に活動の中心になった3年生の生徒は「防災・救命処置を学ぶ」について、違う視点と内容で取り組めることがまだたくさんあるという思いをもっており、次の生徒会執行部へ引継ぎ今回の取組をさらに発展させたいと考えている。

取組名	職員研修会（AED・担架搬送）		
特徴	緊急事態に生かせる実践的な研修		
学校名	山陽小野田市立高千帆中学校	期日	令和6年5月17日（金曜日）

## 1 ねらい

- 緊急事態に備えて、迅速に正確な対応ができる力をつける。
- 危機意識を高め、有事の際に落ち着いて行動できるように日頃から研修を積む。

## 2 概要

### (1) AED訓練

- ・最初に心肺蘇生法、AEDの使用方法を研修した後、傷病者発見から救急車到着までを10分間と想定し、一連の流れを実践した。第一発見者が、近くにいた職員・生徒役に110番通報やAEDの持参を指示し、心肺蘇生を開始。AEDは普段置いているところまで実際に取りに行き、傷病者を隠すための毛布やブルーシートも使用した。心肺蘇生では、10分間継続するために、二人一組になり連携して処置を行う練習も行なった。



【連携して心肺蘇生を行う様子】



【傘やブルーシートで傷病者を隠す工夫】

### (2) 担架搬送

- ・最初に傷病者を担架に乗せる際の注意事項を指導いただいた。実際に校舎内を傷病者を担架に乗せて移動することで、階段での運搬の際の注意点、狭い場所での旋回の難しさを研修することができた。



【傷病者を担架に乗せる様子】



【担架で校内を移動する様子】

## 3 成果と今後の課題等

実際に時間を計測したり、普段置いている場所へAEDを取りに行ったりすることで、実践的な研修をすることができた。後日、実際に担架を使うことがあったが、スムーズに行うことができた。

今回は職員だけの研修を行なったので、今後は生徒と一緒に研修を行い、誰でもどこでも緊急時に対応できる体制づくりを進めたい。

取組名	第13回よしみ地区合同地震・津波避難訓練		
特徴	「吉見地区まちづくり協議会」主催の地域ぐるみの訓練として、地域住民が中心となって、吉見地区の地域団体、公的機関、学校の総ぐるみで取り組んでいる点が特徴である。		
学校名	下関市立吉見中学校	期日	令和6年10月29日（火曜日）

## 1 ねらい

- 誰もが地震・津波に遭遇することがあるという危機意識を高め、生命・身体の安全維持のための適切な行動ができるようにする。
- 地域ぐるみで訓練することにより、海拔の低い地域として防災意識を喚起し、高学年児童や中学生は、自らの命を守り、安全を確保するなかで、地域の一員として地域を守る行動がとれるようになる。

## 2 概要

### (1) 経緯

- ・本避難訓練は、2011年（平成23年）3月11日に発生した「東日本大震災」を教訓に、翌年の2012年（平成24年）から、毎年、10月下旬から11月初旬の日程で実施している。
- ・第1回避難訓練から数えて、2024年（令和6年）10月29日実施予定の今年度の避難訓練が、第13回目の避難訓練となる。
- ・第1回～第4回の本避難訓練は、「吉見地区自治連合会」の主催で実施され、その後、第5回から現在まで、「吉見地区まちづくり協議会」の主催で実施されている。

### (2) 参加者

- ・吉見保育園、二葉保育園、吉見小学校、吉母小学校、蓋井小中学校、吉見中学校、海上自衛隊下関基地隊、水産大学校、下関警察署、下関市北消防署、下関市総務部、吉母公民館、吉見地区自治連合会、吉見・吉母長寿会、よしみ子ども見守り隊、下関市消防団吉見分団

### (3) 避難場所

- ・吉見近隣公園（吉見地区園児・児童・生徒・住民）、水産大学校（永田本町住民）、吉母小学校（吉母地区児童・住民）、蓋井小中学校（蓋井島地区児童・生徒・住民）

### (4) 活動内容

- ・当日は、地震発生後に、津波警報が発令されたという想定で避難訓練が実施された。
- ・「緊急地震速報」の指示に従って、机の下にもぐって頭を守って待機する「シェイクアウト訓練」に取り組み、その後、本校グラウンドへ一次避難を行った。



シェイクアウト訓練



教室からグラウンドへの避難



グラウンドに集合

- 一次避難後に津波が発生し、津波警報が発令された想定で、消防車のサイレンを合図に、吉見近隣公園への二次避難を行った。吉見保育園と二葉保育園の園児、吉見小の児童、吉見地区の地域住民、警察署や消防署、海上自衛隊など、吉見地区の多くの地域住民が、二次避難場所の吉見近隣公園に避難した。



二次避難場所への移動



二次避難場所に到着



吉見近隣公園に集合

- 二次避難後の全体集会では、下関北消防署長及び海上自衛隊指令による避難訓練の様子等についての講評が行われた。続いて、「簡易担架」の作り方・使用法等について、実演を交えながら指導が行われ、本校生徒も、実際に、「簡易担架」を作り、要救助者を担架で運ぶ体験に取り組んだ。
- 今回の避難訓練では、初めての試みとして、「ドローン」を活用した避難支援活動が実施され、要避難者に対する「ドローン」からの音声案内による避難誘導活動が紹介された。



「簡易担架」の説明



「簡易担架」の使用体験



「ドローン」の避難支援活動の説明

- 全体集会終了後に、「小中合同児童・生徒引き渡し訓練」を実施し、保護者の皆様のご協力のもと、安全かつ迅速に、児童・生徒引き渡しを行うことができた。



報道取材を受ける生徒



生徒引き渡し訓練の様子



生徒引き渡し訓練の様子

### 3 成果と今後の課題等

- 今年で13年目を迎える地域と連携した本避難訓練は、地域の中でもかなり定着してきており、地域住民を含め約500名が参加して行われた。これまでの本避難訓練の地域ぐるみの活動が評価され、「令和6年度学校保健及び学校安全文部科学大臣表彰」を受賞した。
- 今後の課題としては、放課後や休日等の災害に備え、自分の居住地の避難所を確認させたり、避難経路を自分で調べさせたりすることで、生徒の危機対応力の向上に努めていく。

取組名	越ヶ浜中学校校区地域ぐるみの防災キャンプ		
特徴	学校・家庭・地域・関係機関が連携し、防災の意識を高めた。		
学校名	萩市立越ヶ浜中学校	期日	令和6年8月4日（日曜日） 令和6年8月5日（月曜日）

## 1 ねらい

- 「地域協育ネット」等が主体となり、学校・保護者・地域・関係機関が連携し、災害発生時の危機管理（高潮・津波）について学ぶとともに、避難所生活を想定した宿泊体験、備蓄食の試食、応急処置等を含む総合的な体験学習を実施し、児童生徒が災害発生時において、正しい知識をもとに的確に状況を判断し、自ら安全に行動することはもとより、他の人や社会に貢献できる心と実践力の育成を図る。

## 2 概要

### (1) 地域のために自分たちができること（熟議）

- ・ 児童生徒、保護者、地域が6グループに分かれて「避難所に持参するもの」と「地域のためにできること」をテーマにした熟議を開催した。



県防災アドバイザーの講話



地域住民との熟議の様子



保護者同士の熟議の様子

### (2) グループに分かれての体験（講義・演習）

- ・ 萩市消防本部、自衛隊、山口県教育庁学校安全・体育課の協力をいただき、応急処置・救急救命（AED）、災害体験VR、災害派遣講義の3講座を開催した。



VR体験



救急救命



災害派遣講義

## 3 成果と今後の課題等

- 災害が起こった場合にどのような物が必要なのか、どこに逃げれば良いかなど災害に備える大切さを改めて学ぶことができた。
- 地域の方々との熟議を通して、避難所では人と人との繋がりが重要なため、日頃のあいさつや声かけが大切であると実感することができた。
- 地域住民の高齢化及びコロナ禍を境に地域の自主防災機能が停滞している傾向があるので今回の防災キャンプをきっかけに活性化していくと良いと考える。そのために、学校が地域コミュニティの中心となっていく必要を感じた。

取組名	専門家等と連携した防災授業 ～「Keyワードは『3と5』」サバイバルレッスン～		
特徴	専門家（大学准教授）による体験型の防災学習		
学校名	萩市立田万川中学校	期日	令和6年7月11日（木曜日）

## 1 ねらい

- 災害とは何か、備えとは何かについて学び、災害発生時の行動や災害発生に備えるための準備について考える。
- 生徒自身の災害に対する意識の向上をはかるとともに、「自助・共助・公助」の力を身に付け、安全に関する生徒の資質能力の向上を図る。
- 防災グッズ等の見学を行うことで、災害発生時における準備物の知識を高めるとともに家庭での防災に関する話し合いの一助とする

## 2 概要

### ○講義「Keyワードは『3と5』」サバイバルレッスン

#### ①災害発生時の行動や災害発生に備える準備物について

- ・津波災害に関するDVD視聴
- ・津波発生メカニズムとその広がり方について
- ・田万川地区における洪水ハザードマップ及び土砂災害ハザードマップを用いた、学校及び自宅の状況の確認
- ・災害発生時の行動について  
キーワード「3」について  
キーワード「5」について

#### ②防災グッズの見学・体験

- ・防災グッズの見学
- ・防災グッズの利用方法及び説明

#### ③ロープワーク

- ・ロープワーク（もやい結び）の実習



【ハザードマップの確認】



【防災グッズ見学】



【ロープワーク】

## 3 成果と今後の課題等

- 災害の事例と、そのメカニズムについて学ぶことで、自分たちが生活している地区においても様々な災害が発生しうることに気付くことができた。
- ハザードマップを確認することで、自分事として、防災について考えることができた。
- 防災グッズを確認したり、ロープワークの実習を行ったりすることで、日頃の備えが大切であることに気付くことができた
- 本校の地域は過去、大雨災害を受けているが、生徒の記憶には実体験としては残っていないため、より地域に密着した内容を取り上げて、意識の高揚を図りたい。

取組名	安全設備に関する知識を活用した火災避難訓練		
特徴	消防署との連携により、生徒が主体的に安全設備を活用することを意識した火災避難訓練		
学校名	長門市立三隅中学校	期日	令和6年11月6日（水曜日）

## 1 ねらい

- 自他の安全に配慮しながら、指示や情報に従い、速やかに避難することができる。
- 学校の安全設備等についての学習を通して、火災発生時に主体的に活用して避難することができる。
- 消火訓練を通して、社会や他の人の安全のために貢献することができるようになる。
- 緊急時の連絡体制や役割分担等、状況に応じて連携を図りながら、生徒を安全に避難させることができる。（教職員）

## 2 概要

### (1) 理科の授業での実験中の火災の想定のもと、生徒が自分の安全を確保しながら、適切な判断をして安全設備を活用する避難訓練

- ・3年生の理科の授業内で訓練を実施し、自分の安全を確保しながら、火災警報機の作動、インターホンを活用した職員室への連絡など、課題解決的な学習を意識した訓練とすることができた。
- ・煙霧の中、避難誘導灯に従って避難する訓練を行った。実際に体験することで、煙の怖さ、冷静に避難誘導灯を探す必要性など、火災時の避難のイメージを明確にもつことができた。
- ・教職員の災害等発生時における連携体制を強化し、安全教育についての研修や経験を深めることができた。

### (2) 消防署予防課と連携した、屋内消火栓、避難はしご等の設備を活用した訓練

- ・昨年度、一人でホースを扱う屋内消火栓設備を活用した訓練を行っており、本年度は、複数人で連携してホース扱う屋内消火栓設備を活用した訓練へと発展させた。
- ・避難はしごを使った避難の訓練では、設備の位置を確認させ、消防署の職員や教員のサポートのもと、避難はしごを使って避難する訓練を行った。実際に活用してみることで得られた知識と技術が、火災が発生した場合に自他の命を守ることにつながることを意識した訓練をさせることができた。



煙霧の中を避難する訓練



避難はしご避難



屋内消火栓設備を使った放水訓練

## 3 成果と今後の課題等

消防署予防課の方との連携を密にし、教職員で校内の安全設備や避難方法等をすべて確認することで、火災の際、設備を迅速に活用するための有効な研修となった。また、全校生徒に校内の安全設備等について認識させるとともに、実際の避難や消火体験から、自他の命や安全を守る当事者としての意識をもたせる訓練とすることができた。

取組名	日置地区災害避難訓練		
特徴	地震発生を想定、災害に対応するため、保・小・中・市・消防・警察・教育委員会が連携した避難訓練を実施した。		
学校名	長門市立日置中学校	期日	令和6年10月1日（火曜日）

## 1 ねらい

- 地震発生を想定し、日置地区保・小・中学校2園3校と長門市の防災体制の連携強化を図るとともに、児童生徒の防災意識の高揚を図る。

## 2 概要

### (1) 避難訓練

- ・日本海沖を震源とするM7.5の地震が発生し、長門市では最大震度5強の揺れが発生したことを想定した。
- ・緊急放送で訓練を知らせ、揺れが収まるまで机の下に隠れて、机の脚を対角線に持ち身の安全を確保した。揺れが収まったことを放送で知らせ、安全を確認しながらグラウンドに避難した。
- ・避難完了後、人員確認を行い、教育委員会へ避難状況を連絡した。

### (2) 防災研修（講話・体験）

- ・避難後は、消防署職員による地震発生時の対応についての講話と消火器を使用した初期消火活動の体験、負傷者への応急処置の方法を長門市西消防署員と長門市消防本部予防課職員から学んだ。
- ・水消火器と屋内消火栓の操作方法を体験した。
- ・三角巾や段ボール等を使って、負傷者への応急処置を体験した。



屋内消火栓の放水体験



三角巾と段ボールを使った応急処置

## 3 成果と今後の課題等

今年度も、日置みすゞ学園を中心とした日置地区のコミュニティで行われる災害避難訓練を実施した。地震を想定し、避難した後、日置支所、消防署、警察、教育委員会と連携し研修会を行うことで、生徒の防災意識と自分の身は自分で守るという意識の高まりを感じることができた。三角巾と段ボールを使った応急処置の体験から、災害時には互いに助け合う共助の気持ち大切であると感じることもできた。また、生徒は初めて屋内消火栓の放水を体験することができたので、いざという時にも対応できると思われる。

今後は、小学校・中学校・保育園と合同での訓練を、さらには、保護者・地域の方も一緒に参加できる形はできないか模索していきたい。また、より実効性のある防災訓練を実施していきたい。

取組名	阿武小中・みどり保育園合同引渡し訓練【地震による土砂災害対応】		
特徴	園児・児童・生徒・教職員及び保護者が連携して防災意識を高める。		
学校名	阿武町立阿武中学校	期日	令和6年12月12日（木曜日）

## 1 ねらい

- 「きづく、きめる、かかわる、やりぬく」の心や力を育む取組を意識しながら、児童生徒が自らの命を守り抜く「主体的に行動する態度」を、校区全体で、地域とともに協働しながら育成する。
- 園児・児童・生徒、教職員（保護者、地域住民）の防災意識を高める。
- 放送・教職員の指示のもと、安全かつ迅速に避難する態度を身につける。
- 保育園児の避難へ協力することを通して、保小中連携（地域協育ネット）による効果的、実践的な避難訓練の在り方を探る。
- 地震を含め様々な災害（火災、津波、暴風、竜巻等）や緊急事態発生（不審者出没、暴力事件等、生徒だけでの下校が危機・危険を伴う場合）の際、生徒を安全にかつ確実に保護者へ引き渡すことができるようにする。

## 2 概要

### (1) 事前指導

- ・情報を正しく聞き取り、安全で迅速な行動がとれるよう地震・津波対応についての指導を学校全体、各学年で日頃から行う。

### (2) 避難訓練

- ・保小中別に実施する。地震発生時刻（14時）、震度（5弱）の想定は統一し、それぞれの避難場所に避難する。

### (3) 引渡し訓練（保小中合同）

- ① 避難訓練と並行して保護者に引き取り依頼のメールを送る。
- ② 避難訓練終了後、教室に戻り荷物をもって引渡し会場である町民センターに移動する。
- ③ 実際を想定して駐車場での誘導はしないが、教員が駐車場について課題点を見つける。
- ④ 保護者への引き渡しを行う。

## 3 成果と今後の課題等

- 高潮、津波に対する避難は町民センターではなく、それぞれの園・学校での垂直避難でよいかもしれない。土砂災害の可能性があれば町民センターを避難場所にしたほうが良い場合もある。災害の種類によって迅速に判断をする必要がある。
- 町民センターは地域住民の避難場所にも指定されており、混雑してしまう可能性があるのではないか。
- 引き渡しカードを作成する必要性をもう一度考える。中学生は生徒本人の確認でよいのではないか。

取組名	円滑な連携体制のある心肺蘇生法とAEDで命を救う		
特徴	小学生と中学生、教員と保護者が合同で救命救急講習会を実施し、連携力、実践力を高めた。		
学校名	山陽小野田市立埴生小中一貫校	期日	令和6年6月10日（月曜日）

## 1 ねらい

- 児童生徒が生涯にわたって健康で生き生きとした生活を送ることをめざす。
- 心身ともに健康な児童生徒を育成するために、学校保健・安全に関する諸問題を研究協議し、課題の解決を図るとともに、学校・家庭・地域の安全意識を高める

## 2 概要

### (1) 小学6年生と中学2年生合同の救命救急講習会

- ・ 令和6年6月10日（月曜日）5時間目に、埴生小学校6年生と埴生中学校2年生が合同で救命救急講習会を実施。日本赤十字社山口県支部より5名の指導員による心肺蘇生法とAEDの使い方について3～4名のグループに分かれて指導を受けた。

### (2) 保護者と教職員合同の救命救急講習会

- ・ 同日6校時に埴生小学校・中学校の保護者と小・中学校の全教員による合同救命救急講習会を実施し、児童・生徒同様に指導員による指導を受けた。



## 3 取組の感想

### (児童生徒の感想)

- ・ 今回覚えたことを忘れずに、生活の中でもし身近な人が倒れたりした時に助けられるよう覚えておきたい。
- ・ 人が倒れていたり、助けを求めたりしたら、自分から積極的に行動して人の命を救えるような人になりたい。

### (教職員の感想)

- ・ いつものAEDの内容と合わせて、誤飲事故に合わせてその対処法を学べたのがよかった。また、心肺蘇生法の演習で、2回目のAEDの合図を確認し、その後救急が到着するまで交代しながら心肺蘇生していたのが、臨場感があってよかった。

### (保護者の感想)

- ・ 目の前の消えそうな命に出会わないのが一番ですが、出会ったときの対処として、覚える必要のある事だと思いました。
- ・ 昨年も参加しましたが、やはり忘れていた事が多く、時々練習する事が大事だと思いました。

## 4 成果と今後の課題等

毎年実施している行事であるため、毎回参加される保護者や教員は、技能等の習熟度は高まり、理解度は深まっている。しかし、実践の場がほとんどないため、児童生徒も含めて繰り返し学ぶ場を設定することが必要であり、教育課程の中に組み込んでいきたい。

取組名	児童生徒が参加した学校安全委員会（地域安全マップ作り）		
特徴	安全マップ作りを通して、参加者の安全に対する意識を高めた。		
学校名	萩市立見島小中学校	期日	令和6年9月26日（木曜日）

## 1 ねらい

- 学校における安全に関する問題を児童生徒と地域住民が協議する活動を通して、安全・安心な学校づくりを推進する。
- 校区内における危険箇所（交通安全・防犯を含む生活安全）を共有し、意見交換をする活動を通して、安全に関する意識を高めるとともに、危険予測能力の向上を図る。

## 2 概要

### (1) 事前指導

- ・9月5日（木曜日）に地域安全マップを作成するということを伝えるとともに「危険箇所」はどのような場所か事前指導を行った。画像を見ながら「見通しの悪い場所」「暗い場所」「人通りの少ない場所」などに気付くことができた。

### (2) 資料集め

- ・児童生徒の保護者にも一緒に危険箇所を探してもらうように協力を仰いだ。
- ・児童生徒はタブレットを持ち帰り、子どもと保護者で話しながら危険箇所を見つけ、撮影した。
- ・学校安全委員会に参加される地域の人にも、各自の視点で危険箇所を挙げてもらった。



危険箇所について整理する生徒

### (3) 熟議に向けての準備

- ・各自で見つけた危険箇所について「場所」「状況」「予測される危険」についてまとめた。

### (4) 学校安全委員会（地域安全マップ作り）

- ・本校の学校安全の取組についての説明後、「見島の危険箇所について話し合おう」というテーマで熟議を行いながら、地域安全マップを作成した。
- ・1枚ずつ画像を提示し、そこを見つけた人が「場所」「状況」「危険予測」を話した。その後、意見交換を行った。中にはその場で実際に危ない経験をしたという意見もあった。



見つけた危険箇所を伝える



画像を見ながらの意見交換



危険箇所を安全マップで確認

## 3 成果と今後の課題等

- ・「一人では気付かない危険箇所が分かった。」「安全に生活したい。」など安全へ意識が向いた振り返りが多かった。
- ・市でも改善していくという関係者の話を聞き、子どもたちも地域づくりに参画しているという実感をもった。
- ・これで完成ではなく、児童生徒が新たに気付いた危険箇所は随時加え、生きた安全マップにしたい。



安全マップを見る児童

取組名	下校時の交通安全対策		
特徴	生徒、教員による交通安全指導、及び消火器の設置場所と使い方の確認		
学校名	山口県立岩国総合高等学校	期日	令和6年 9月25日（水曜日） 令和6年 10月16日（水曜日）

## 1 ねらい

- 秋の交通安全週間において、交通立哨をボランティアで実施する生徒を募集し、下校時に交通安全運動を実施した。生徒の自主的な活動により、交通安全の機運を広げていくことがねらい。
- どこに消火器・消火栓があるのか、またその使い方を確認することで生徒の防災意識の向上を図る。

## 2 概要

### (1) 取組の流れ

- ・秋の交通安全週間期間中に、ボランティアで交通立哨を手伝ってもらえる生徒を募集し、下校時に、およそ50分間の間交通立哨を実施した。
- ・火災発生時のために、消火器・消火栓の位置と使い方を生活委員と教員で確認した。

### (2) 交通立哨 9月25日（水曜日）

- ・下校中の生徒、特に自転車通学生のヘルメット着用と自転車の乗り方について呼びかけた。ヘルメットについては全員着用していた。乗り方についても、特に問題はなかったが、学校を離れた場所でのマナーが悪いという情報も入っている。危険な乗り方をしないように、粘り強く呼びかけていきたい。



(交通安全立哨)

### (3) 消火器・消火栓の使い方及び設置個所の確認

- ・武道場の入口に設置してある消火器について、使用方法を確認した。わかりやすい場所にあるにもかかわらず、消火器の場所を把握している生徒は少ない。
- ・体育館内の消火栓の場所を確認した。基本的には消火栓は教員あるいは消防士が使用するが、もしもの場合に備えて、生徒にも使用方法を教えた。



(消火器の確認)

## 4 課題

- 自転車の乗り方については、登下校中、特に学校の近くでのマナーはきちんとしているが、休日や学校から離れたところで安全運転ができているのかは疑問である。自分の身を守るための乗り方がどこでもできるように、引き続き指導していきたい。
- 消火器の設置場所を、予想した以上に把握していなかった。設置場所、使い方を他の生徒にもひろげていきたい。



(消火栓の確認)

取組名	安全教育・安全管理		
特徴	中高一貫教育校での中高合同の避難訓練		
学校名	山口県立高森みどり中学校 山口県立高森高等学校	期日	令和 6年 6月27日 (木曜日) 令和 6年 7月16日 (火曜日) 令和 6年 12月24日 (火曜日)

## 1 ねらい

- 教職員の救命救急の意識、大事さを感じる。
- 生徒・教職員の防災意識を高め、「自助」「共助」「公助」についての認識を深める。また訓練を通して非常時の避難経路・避難場所の決定までの方法、教職員のとるべき行動を確認する。

## 2 概要

- ・令和 6年 6月27日 (木曜日) に教職員を対象としたAEDを用いた救命救急法を学ぶ研修を実施
- ・令和 6年 7月16日 (火曜日) に中高合同で地震避難訓練を実施。
- ・令和 6年 12月24日 (火曜日) に中高合同で火災避難訓練を実施予定。

## 3 成果と今後の課題等

- AEDを用いた教職員研修は、岩国地区消防組合職員を講師として実施した。AEDの使い方を、万が一に備えて、定期的に研修する必要性を感じた。今回の研修を生かして、教職員全員が迅速に行動する必要性を実感できた。
- 地震避難訓練では、避難経路を放送で指示して避難することができたが、避難中に生徒の行動において緊張感に欠ける場面がみられた。ショートホームルーム等を通じて災害は日常生活でいつでも起きる可能性があることを生徒へ伝え、訓練を徹底することが今後の課題である。  
また、教職員の役割分担が徹底しておらず、教職員の動きが遅れた。地震発生から、倒壊場所の確認、避難経路をどのように設定し、各ホームルーム担任へ伝達するかを再度確認する必要がある。



AED を用いた教職員研修の様子

取組名	保健授業における地域と連携した安全学習		
特徴	地域の消防署から講師の方に来ていただき、胸骨圧迫やAEDの使用方法を実際に体験し、学びを深めた。		
学校名	山口県立柳井商工高等学校	期日	令和6年7月9日（火曜日） 令和6年7月10日（水曜日）

## 1 ねらい

- 講師の方の説明や実演から、心肺蘇生法の手順や方法について理解するとともに、実際に人形やAEDを使って心肺蘇生法を体験し、学びを深める。
- 応急手当が必要な状況に遭遇した時に、自ら進んで応急手当を行う態度が必要であること、救急体制を適切に利用する必要があることを理解できるようにする。

## 2 概要

### (1) 柳井警察署の講師の方をお招きしての心肺蘇生法の講習会

- ・ 令和6年7月9日（火曜日）、7月10日（水曜日）に保健授業において、柳井消防署から講師の方に来ていただき、本校の1年生、教職員に向けて人形やAEDを活用した実践的な講習を実施した。
- ・ 生徒、教職員が実際に胸骨圧迫やAEDを講師の方からの指導のもと、体験した。
- ・ 心肺蘇生法において胸骨圧迫を優先して行うこと、AEDを使用するうえでの留意点等を講師の方から説明を受け、学びを深めた。



心肺蘇生法の体験の様子③



心肺蘇生法の体験の様子④

## 3 成果と今後の課題等

- 生徒は教師の説明を熱心に聞きながら、実際に胸骨圧迫やAEDを使用して心肺蘇生法を体験し、学びを深めることができた。
- 教職員も講習に参加し、応急手当や心肺蘇生法について改めて理解するとともに、安全意識の向上を図ることができた。

取組名	大規模地震及び津波を想定した避難訓練		
特徴	津波の到達予測時間を踏まえた高台への二次避難		
学校名	山口県立熊毛南高等学校	期日	令和6年7月12日（金曜日）

## 1 ねらい

- 大地震発生の際の安全対応、想定される火災及び津波発生に対する安全で迅速な避難の方法を確認する。

## 2 概要

### (1) 地震発生からグラウンドへの一次避難

- ・ 緊急地震速報を流し、放送を聞いた生徒は自ら机の下に隠れ、身を守る行動を取る。
- ・ 火災が発生していることを放送で伝え、グラウンドへ避難するよう指示を出す。
- ・ 生徒は放送を聞き、避難経路を通過してグラウンドへ避難する。
- ・ 一次避難後、人員確認を行った。



避難の様子



一次避難後次の指示

### (2) グラウンドから高台への二次避難

- ・ 津波発生を想定した二次避難の指示を出す。避難指示を聞いた生徒は担任教諭の誘導の下、学校裏の高台へクラス単位で避難する。
- ・ 津波到達予測時間は一時間程度あるため、歩いて避難するように指示をする。
- ・ 避難場所到着後、再度人員を確認し、今回の訓練の総評を行った。



二次避難の様子



全体での総評

## 3 成果と今後の課題等

- 事前に避難方法等を確認していたため、生徒・教職員ともに落ち着いて行動することができた。
- 昇降口での混雑などが反省点として挙げられたため、大規模地震が実際に起こったらさらなるパニックが予想される。地震発生の際に落ち着いて避難できるように、日常的に避難方法などについて確認するとともに、継続して防災教育を進めていくことが必要である。

取組名	AEDの使用を含むエピペン®講習並びに教職員応急手当講習会		
特徴	学校薬剤師による講習・実技演習		
学校名	山口県立防府高等学校	期日	令和6年5月13日（月曜日）

## 1 ねらい

- 一般的な心肺蘇生の知識や技術や担架を用いた搬送法について習得し、緊急時に組織としての確な対応ができるようにする。
- 緊急時にすべての教職員がエピペン®の使用方法を習得し、使用できるようにする。

## 2 概要

### (1) 応急手当講習会

体調不良により担架を使用する際に、教職員誰もが対応できるよう、毎年5月の考査期間中に、研修を設定している。講師については、防府市消防本部や日本赤十字社へ依頼している。研修内容は、心肺蘇生法とAEDの使用方法について、担架の使用方法や搬送時の注意事項等について講習である。



搬送方法を実践



心肺蘇生法とAEDの実技指導

### (2) エピペン®講習会

エピペン®所持者が在籍しているため、毎年度、早い時期に講習会を設定している。学校薬剤師を講師として迎え、一人ずつエピペン®トレーナーを配付し、実践練習を行っている。また、文部科学省作成のアレルギー疾患対応資料のビデオを視聴し、緊急時の対応を確認している。



講習会の様子



エピペン®講習会資料から

## 3 成果と今後の課題等

担架の使用が必要な時に、体調不良等の生徒をスムーズに搬送することができている。しかし、講習会を行っても緊急時になると担架の使用方法や搬送方法について忘れてしまっていることがある。毎年研修を実施するとともに、日頃から緊急時に備えシミュレーションしておくことが大切である。今後も研修会の内容について精査しながら、継続していく。

取組名	避難訓練（地震）		
特徴	停電等による放送機器使用不能時を想定して実施		
学校名	山口県立防府西高等学校	期日	令和6年7月18日（木曜日）

## 1 ねらい

- 全校生徒および教職員の防災意識の高揚を図り、地震発生時の様々な状況下で、適切な行動を取り、避難後の人員確認まで迅速にできるようにする。今回は、停電により放送機器使用不能時を想定して訓練を実施する。
- 生徒は、避難時に避難経路の安全を確認しながら、状況に応じた冷静かつ迅速な避難行動がとれるようにするとともに、地震が起こったときの適切な行動（シェイクアウト）について理解実践する。
- 教職員は、被災時に避難経路を速やかに判断し、生徒を適切に誘導し、安全第一に避難を完了するとともに、防災施設や設備の確認(点検)、非常持ち出し書類等の確認を行うようにする。

## 2 概要

### (1) 事前準備

職員会議及び職員朝礼にて、教職員に放送機器使用不能時の対応について、実施要項により事前確認

### (2) 当日実施内容

- ・地震発生…放送機器が使用不能のため、クラス担任がシェイクアウトの指示
- ・避難指示…地震発生後の2分後、クラス担任の判断で指示
- ・避難経路…各クラス担任の判断により「安全第一」に避難経路を選択しグラウンドへ
- ・点呼確認…全校集会の隊形(出席番号順)に集合後、各クラスのクラス担任が人員確認  
⇒HR担任は、直ちに本部（グラウンド内）の年次主任に報告  
⇒年次主任は、本部の教頭へ報告  
⇒教頭は校長に報告。



シェイクアウトをする生徒

## 3 成果と今後の課題等

### (1) 成果

- ・教職員の事前確認により、放送機器が使用できない場合でも、生徒への適切な指示により、教室での地震対応、グラウンドへの安全な避難をすることができた。

### (2) 課題

- ・今回は、HR教室でクラス担任の指示のもとで実施したが、通常授業において授業担当が指示して地震対応、避難をする訓練も必要である。

取組名	防災に関する授業の実施		
特徴	1学年「家庭基礎」、2学年探究科「理数探究」において、ハザードマップの作成とおして防災意識や安全意識を高めた。		
学校名	宇部高等学校	期日	1学年：令和6年8月～9月 2学年：令和6年度通年

## 1 ねらい

授業においてハザードマップを作成し発表することによって、全校生徒に災害を自分事として捉えさせ、防災や安全を意識した生活の大切さを伝える。

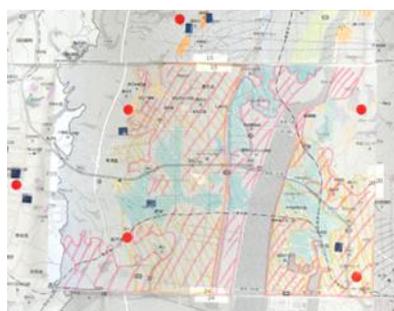
## 2 概要

### (1) 1学年「家庭基礎」におけるハザードマップ作成

- ・9月1日の「防災の日」に合わせて、1学年「家庭基礎」の授業で、居住地が隣接する生徒同士で班を作り、居住地域の危険個所を原因に応じて色分けしながらハザードマップを作成。
- ・班ごとに災害の起こりやすい地域やその原因、避難場所等について調べたことを発表。
- ・完成させたマップは、家庭科室前廊下に掲示、通行する生徒が見られるようにした。



生徒が作成したマップ



拡大図

### (2) 2学年探究科「理数探究」におけるデジタルハザードマップ作成

- ・情報探究班の生徒が、学校周辺の危険個所をPCやスマートフォン上で簡単に確認できるデジタルハザードマップを作成。地図上のポイントをクリック（タップ）すると、現地の様子を写真で確認することができる。
- ・1月中旬の生徒研究成果発表会において、本校生徒や地域の方に完成版を発表する予定。



危険個所の撮影



デジタルハザードマップ作成

## 3 成果と今後の課題等

1学年のハザードマップ作成後の生徒の感想には、「災害に対する自分自身の意識を高めることができた。」、「自宅付近の災害による危険性について知ることができたので家族と防災（対策）をしっかりと行っていきたい。」などの記述があることから、今回の活動とおして、防災を自分事として捉えることができたようだった。

今後は、授業での学びの成果を他の学年の生徒や家族、地域の方々に向けて発信する機会を増やしていきたい。



取組名	教職員の安全意識の向上と危機対応能力を図る		
特徴	宇部市及び山口大学と連携した防災安全教育		
学校名	山口県立宇部西高等学校	期日	令和6年3月12日（火曜日）

## 1 ねらい

宇部市及び山口大学と連携し、専門的な講話をいただくことで生徒・教員および保護者・地域住民が防災に関する意識を高め、災害時に適切に対処できる知識やスキルを身に付ける。

- 対象 … 本校全校生徒、教員、保護者、地域住民
- 研修会Ⅰ … 専門家による、さまざまな災害への備えや対応についての講話
- 研修会Ⅱ … 宇部市が開発したデジタルハザードマップに活用法についての研修

## 2 概要

### (1) 研修会Ⅰ

- ・山口大学 大学研究推進機構 特命教授 有限会社 山口ティー・エル
- ・オー 代表取締役 三浦房紀 様 をお招きして防災に対する意識啓発の講義を拝聴した。
- ・講義は、大きく3項目に分けられ、一つ目は「災害多発時代」と題して、地震・風水害・集中豪雨についてご説明をいただいた。特に、直近に起こるであろう『南海トラフ地震』発生時の山口県への影響や正しい知識、命を守るための行動について専門家の立場からご示唆いただいた。二つ目は「災害に備える」と題して、地震・津波・風水害の対応や情報入手の大切さについて、三つ目は「防災の最新の技術」と題して衛生通信やデジタルハザードマップについてご説明いただいた。



講義の様子



タブレットを使用した研修

### (2) 研修会Ⅱ

- ・三浦先生の講義を踏まえ、宇部市総務部防災危機管理課から、宇部市が開発したデジタルハザードマップの活用法の説明を受けた。
- ・その後、生徒用はタブレットを使用し、実際にマップを開いて、生徒自身の居住区や学校までの危険個所についての研修を行った。

## 3 安全教育までの経緯とこれから

- ・今回の安全教育は、宇部市から「デジタルハザードマップ」の活用普及の協力依頼をいただいたことをきっかけに、市と連携した安全教育を実施することとした。
- ・市と三浦先生との打ち合わせ会で、学校側の目的と市側の目的を確認し、安全教育の内容を吟味したうえで実施することとした。
- ・さらに、次年度も市と連携した安全教育を行うことも確認した。

## 4 成果と今後の課題等

【研修Ⅰの成果】特に、直近に起こると予測されている『南海トラフ地震』の県の影響やどう自分の命を守るかなど、一番知りたい正しい情報を得ることができたことは大きな成果である。三浦先生の「卒業後は山口県に残ることが一番安全です。」の文言が印象に残った生徒が多かった。

【研修Ⅱの成果】これまでもハザードマップを使った安全教育も行ってきたが、3Dでみれるデジタルハザードマップは初めてである。より危険な個所や、状況・程度も具体的に認知でき、活用の幅が広がった。

【今後の課題】本校は来年度で閉校となり学校での訓練はなくなるが、安全教育は数十年先まで生きるものでなければならない。そのためにも、最後の年度まで宇部市や三浦先生との関係を持ち続け、直近の災害等に対しての、常に新しい情報入手と新しい安全教育の画策を進めたい。

取組名	救急救命講演会とアクションカードの作成		
特徴	宇部・山陽小野田消防局との連携		
学校名	山口県立宇部工業高等学校	期日	令和6年11月20日（水曜日）

## 1 ねらい

AEDの役割や心肺蘇生法について学習することにより、救急救命に関する意識を高め、「命の大切さ」や「人を救うために一歩踏み出す勇気」について考えるきっかけとする。

## 2 概要

消防局と連携した「保健指導」を1年生徒対象に実施  
[講義と実演指導]

宇部・山陽小野田消防局から講師をお迎えし、救急救命について学習した。

時間が経過するほど救命率が下がること、初期対応の重要性について講演いただいた。

また、心肺蘇生やAEDの操作について実演指導が行われた。要救助者に「大丈夫ですか」と声かけを行い周囲に119番通報とAEDの手配を求めた後、胸骨圧迫を開始。

AEDが到着すると電極パットを張り付けて電気ショックを加え、音声ガイドに従いながら胸骨圧迫とAEDの手順を学んだ。

さらに、保健委員会において、救急時に誰もが適切な行動が取れるように、アクションカードを作成し、校内各所に設置、自作の啓発動画で全校生徒へ啓蒙した。



写真1 講演会の様子



写真2  
アクションカード設置の様子

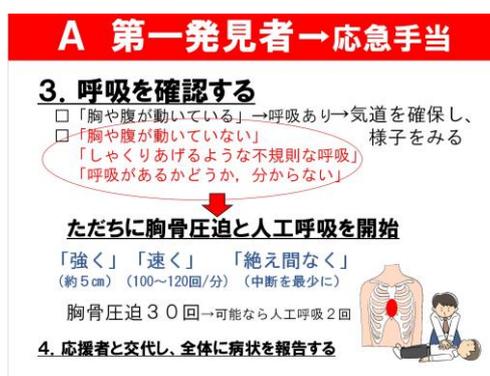


図1 アクションカードA

図1 アクションカードA

## 3 成果と今後の課題等

- AEDを使えば助かる命があることを忘れず、生徒一人ひとりがもしもの時には勇気をもって救命活動できるよう、常日頃から正しい対応を心掛ける。
- 心肺蘇生やAEDの講習を年に1回行うだけでなく、定期的に救命救急について考える機会を設ける。
- 委員会活動、学年、クラス、部活動単位でも、その活動に応じた危険予知を行う等、今後も学校全体の様々な場面で安全教育を行う。

取組名	心停止を想定した教職員の救急法研修 -オリジナル救急アクションカードとフローチャートの作成に向けて-		
特徴	実際に生徒が突然の心停止を起こしたと想定し、居合わせた教職員がどのように行動するか、救急アクションカードを活用してシミュレーションを行った。カードの完成に向けては全教職員及び消防署の御協力をいただいた。		
学校名	山口県立山口農業高等学校西市分校	期日	令和6年7月29日（月曜日）

## 1 ねらい

- 生徒が心停止等の重篤な状態に陥った現場のシミュレーションを行い、緊急時に備える。
- 救急アクションカード及びフローチャートを活用し、的確な救急校内体制を確立する。

## 2 概要

### (1) 救急アクションカード及びフローチャートの作成

本校は生徒数48名の小規模校であり、教職員数も多くない。限られた人員で緊急時の対応を行うことができるよう、オリジナルの救急アクションカードとフローチャートを作成することとした。

養護教諭の作成したアクションカード案を豊浦東消防署の救急救命士に確認していただき、意見を仰いだ。指摘された箇所について修正し、改良を重ねた。更に、これを使用した本校教職員の救急法研修を企画した。

※アクションカードとは：学校や職場などで突然発生する急病や事故に対して、周囲に居合わせた人が応急手当を迅速・的確に実施できるよう、必要な場所に配置した「命を守るアクションカード」を見ながら救命活動を行うことにより、救命効果の向上に繋げようとするものです。（宮崎市ホームページより）

### (2) 教職員の救急法研修

本校では毎年夏休みに消防署の救急救命士を講師としてお招きし、教職員の救急法研修を企画している。今年度の研修では、アクションカードの完成を目指す目的もあるということについて周知したうえで、救急アクションカードを活用しながら、生徒の心停止という緊迫した現場での救命活動のシミュレーションを行った。参加した教職員は、各自が役割を担って見た感想や改善案を発表しあい、またその後、救急救命士の講評もいただいた。

### (3) 救急アクションカード及びフローチャートの更なる改良と実際の活用

研修を終えて、全ての意見を反映させた最終版の救急アクションカード及び対応の全体像がわかるフローチャートを作成し、職員会議で周知した。

今回作成した救急アクションカードとフローチャートは本校の環境に合わせて作成し、更に教職員の意見を反映させた西市分校のオリジナル版である。これは、教職員数や生徒の持病等、年度によって異なる様々な状況に対応できるようにその都度更新していかなくてはならない。

今後、救急アクションカード及びフローチャートを使用したシミュレーションを繰り返し行うことで、全ての教職員が緊急時に、迅速且つ的確に対応できるようにしたい。



## 3 成果と今後の課題等

「おそらくアクションカードはカードを作っている人が一番勉強になるのではないだろうか・そのため、みんなでアクションカードを作れば、学びに繋がるきっかけになるのではないかと。そのアクションカードを活用する場合、最初は訓練なのでカードを見ながらでもよいと思うが、最終的にはカードなしで動けるようになることを目指すべきだと考える。」（第71回山口県養護教諭研究協議大会 公益財団法人 日本AED財団 理事長 三田村 秀雄氏）と言われるように、今回の研修会では研修に参加した教職員が救急アクションカードの作成に携わったことで「本校事」と捉えることができたのではないだろうか。今後も繰り返しシミュレーションを行い、最終的には全ての教職員が、何もない状況でも的確に救急対応ができることを目指したい。

取組名	安全管理 教職員のAEDを用いた心肺蘇生法の研修		
特徴	消防署職員による指導・実習		
学校名	山口県立下関工科高等学校	期日	令和6年6月27日(木曜日)

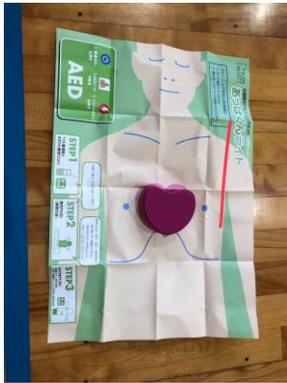
## 1 ねらい

- 心肺蘇生やAEDの講習で実技を受けることで、より多くの教職員が緊急時に適切な対応を行えるスキルを身につける。
- バスクミーの理解と使用方法を知ること、緊急時に教職員が適切な対応をすることができる。

## 2 概要

### (1) 心肺蘇生法の指導

- ・講習会は考査終了後に、本校体育館で実施。講師に下関北消防署職員を招聘。
- ・講師によるデモンストレーション、テキストを参考にしながらの講義の後に教員が一人ひとりが胸骨圧迫を体験。



胸骨圧迫練習キット



キットを使った実習

### (2) AEDの使用方法

- ・AEDの操作方法や緊急時の対応手順、留意点などを学び、講師の指示に従い、代表者数名でAED使用の訓練を行った



AEDも合わせた心肺蘇生法の演習

### (3) バスクミーについて

- ・バスクミーを使用しなければならないケースがあるかもしれないということで、講師によるバスクミーの紹介、使用方法、留意点などを伝えてもらった。

## 3 成果と今後の課題等

- 心肺蘇生やAEDの講習を受けることで、多くの子どもたちの命が救われることへの意識が高まった。
- 講習会を定期的実施することが大切である。今後は学年や部活動など生徒達も参加できるような形にして普及させることが課題である。

取組名	PTA事業の一環として実施した「校内安全パトロール」		
特徴	保護者の立場で子どもたちの安全を考え、危険箇所や避難経路が点検できた。		
学校名	山口県立徳山総合支援学校	期日	令和6年5月15日（水曜日）

## 1 ねらい

PTA役員と保護者を対象にボランティアも募集して、学校に関わる全ての人の視点に立って学校施設の安全点検を行うことで、危険箇所の早期発見とその改善を図る。

## 2 概要

### (1) 「校内安全パトロール」の実施

- 令和6年5月15日（水曜日）に、PTA役員及び保護者のボランティアで「校内安全パトロール」を実施した。18名の参加で、3グループを編成して点検箇所を分担して見て回り危険箇所の点検や非常口及び避難経路を確認した。



校舎を見回っている様子



破損した遊具のタイヤ



柱の下が剥がれている

### (2) 点検箇所のまとめと「防災だより」の発行

- 危険箇所については、写真を撮って危険である理由をまとめ、学校と改善策を検討した。
- パトロール結果と学校の対応を「徳総防災だより」にまとめて発行した。



「徳総防災だより」



## 3 成果と今後の課題等

PTAの積極的・協力的な活動により、教員の目が行き届かなかつたり、気付かなかつたりするような箇所もきめ細かく点検することができた。教職員による校舎等内外の施設・設備の安全点検も定期的の実施しているので、学校と保護者の組織的な学校環境の点検を通して、危険箇所を発見し改善を重ねていきたい。

取組名	事前学習・事後学習を充実させた地震対応避難訓練		
特徴	災害体験VRを取り入れた事後学習		
学校名	山口総合支援学校みほり分校	期日	令和6年10月7日（月曜日）

## 1 ねらい

- 緊急地震速報及び地震発生直後にとるべき行動を理解し、実践することができる。
- 地震についての基本的な知識を身に付け、過去の震災からの教訓を知り、防災意識を高める。
- 教職員が地震災害発生時に、児童生徒を安全・円滑に避難誘導できるようにする。

## 2 概要

### (1) 事前学習と避難

- ・ 令和6年10月7日（月曜日）に小学部・中学部合同で実施した。まず、各教室でパワーポイントによる事前学習を行った。地震の発生状況、南海トラフ地震について知り、緊急地震速報が発令されたときの対応についてクイズ形式で確認した。
- ・ 緊急地震速報に続いて地震の効果音を放送し、机の下に隠れて身の安全を確保させ、放送の誘導で避難を行った。



事前学習



緊急放送後



避難後

### (2) 事後学習（KYT学習、災害体験VR）

- ・ 小学部は児童の実態や特性に合わせたKYT学習を行った。事故に遭わないためにはどのように行動するのかを考えさせ、自ら安全に行動できるよう危機意識や安全意識を高めることを目的として実施した。
- ・ 中学部は今年度から、災害体験VR（山口県防災危機管理課より無料貸出）を活用した体験学習を実施した。地震、水害、津波の3つのコンテンツがあり、これまで知識としてしか知らなかったさまざまな災害を、VRゴーグルを使って疑似体験することができた。



KYT学習（小学部）



災害体験VR（中学部）



## 3 成果と今後の課題等

- 事前学習、避難、事後学習の流れがスムーズで充実した訓練を行うことができた。
- 災害体験VRを用いた疑似体験によって、生徒は自然災害の恐ろしさをその場にいるような感覚で体験することができ、日頃からの備えの必要性を改めて感じる事ができた。